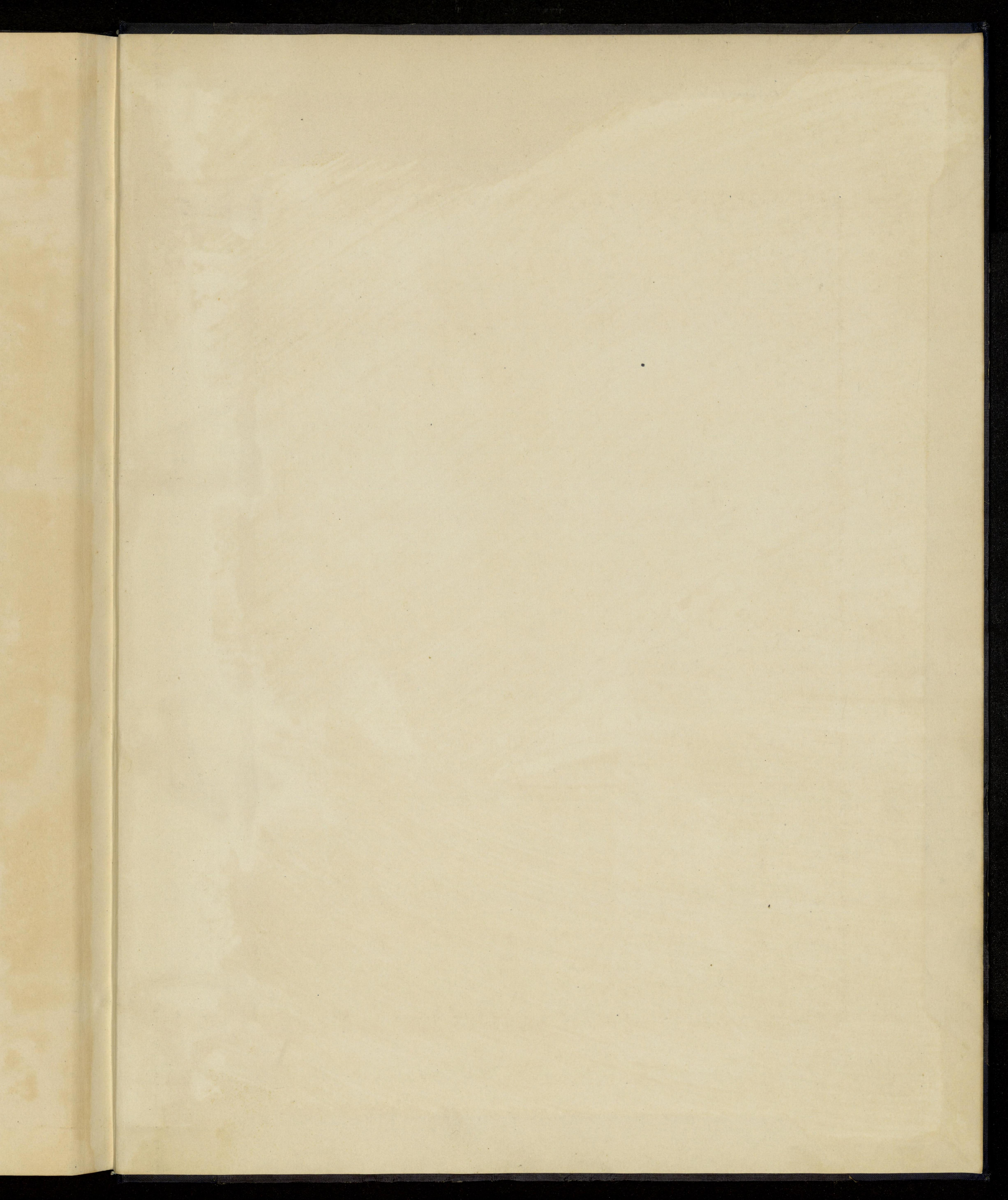
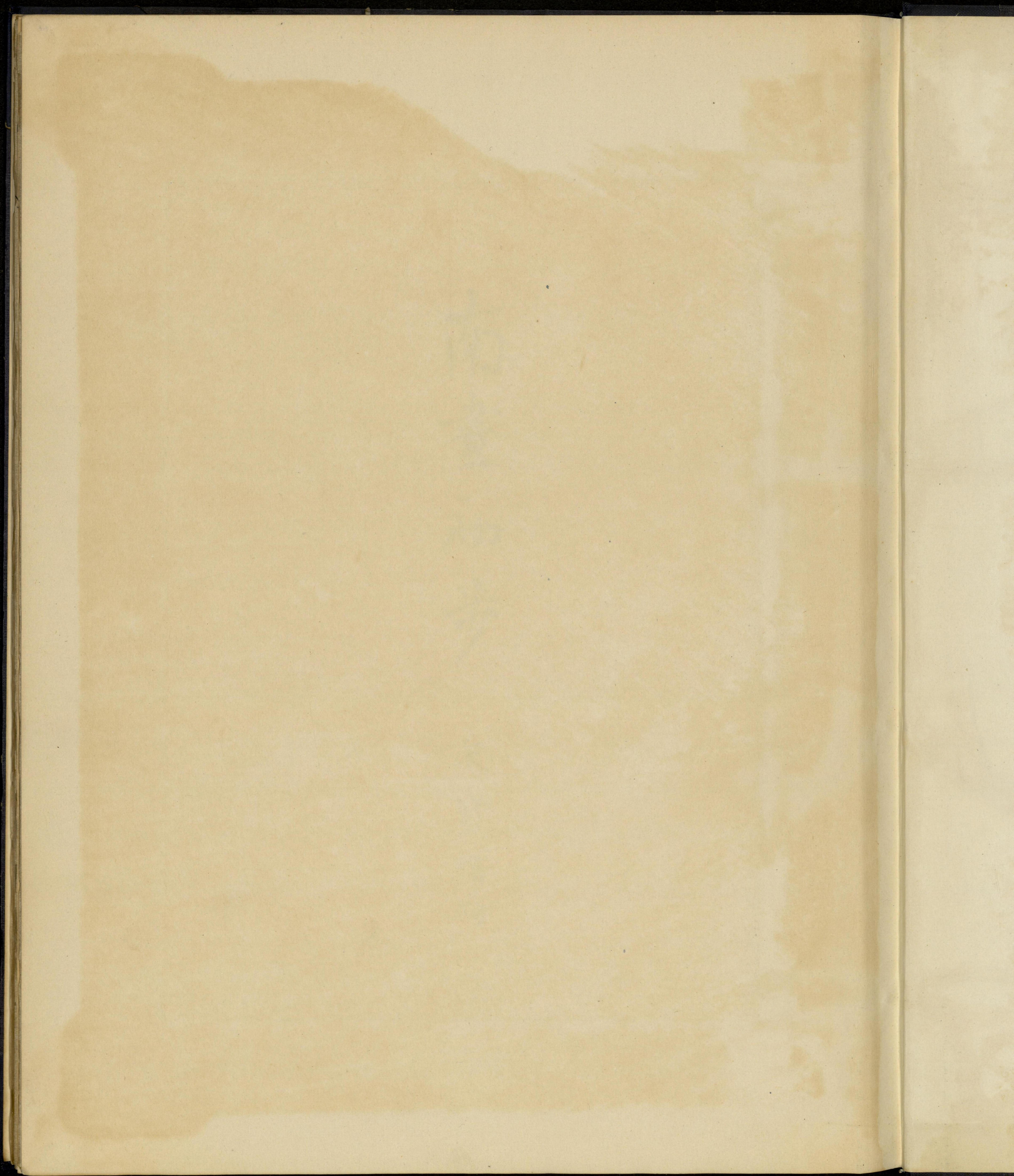


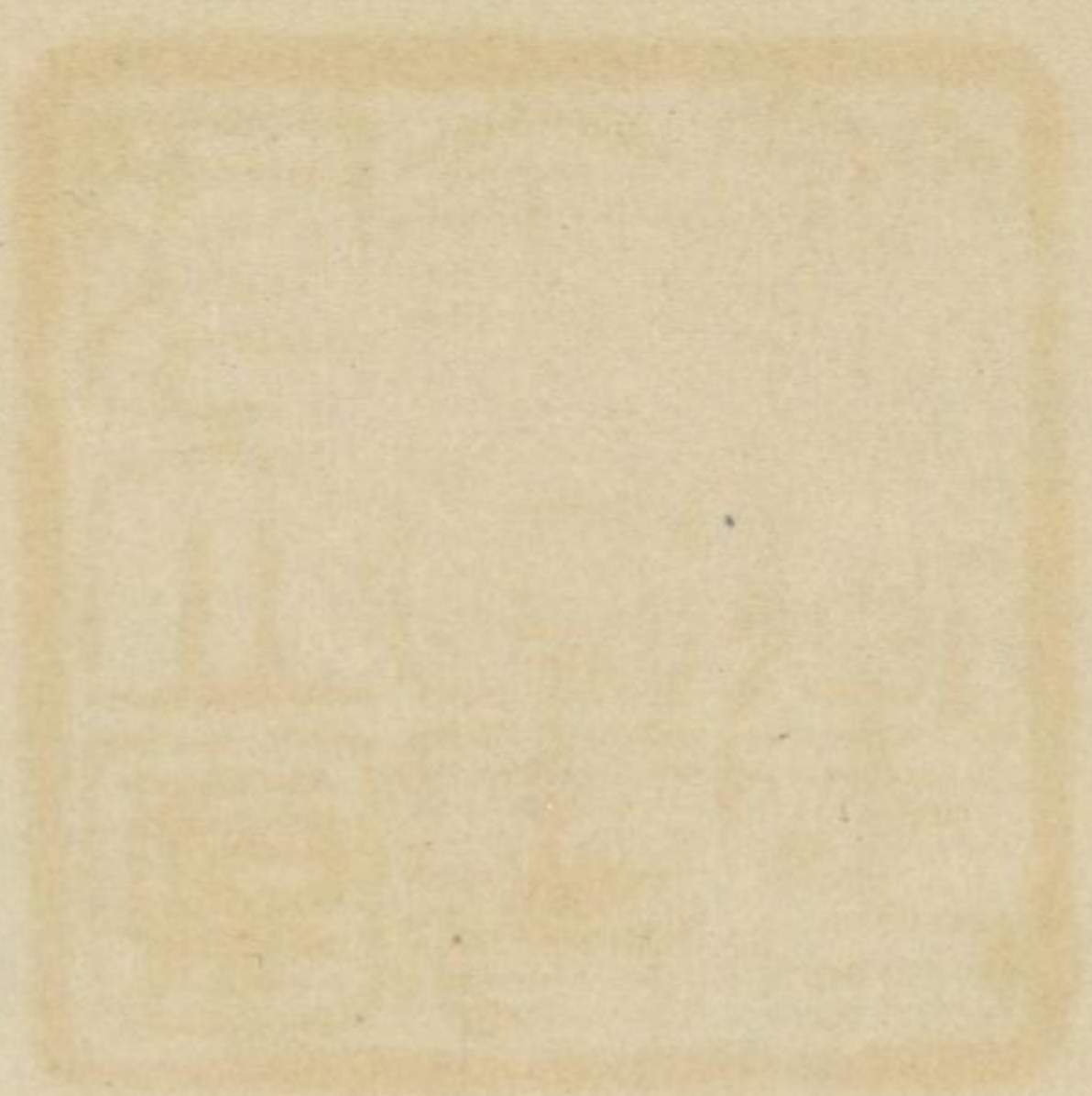
724.2
Y553n



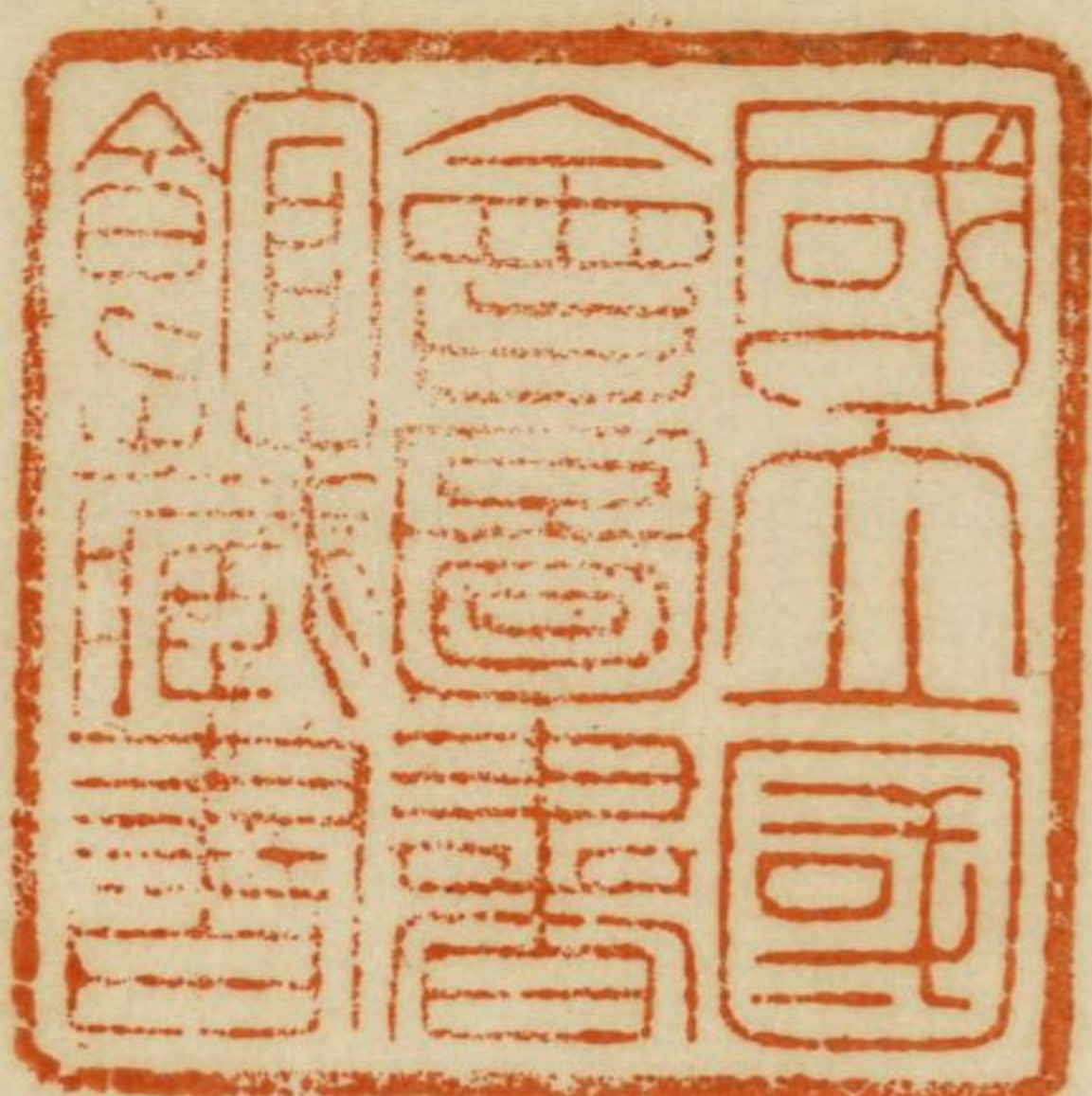
00300681





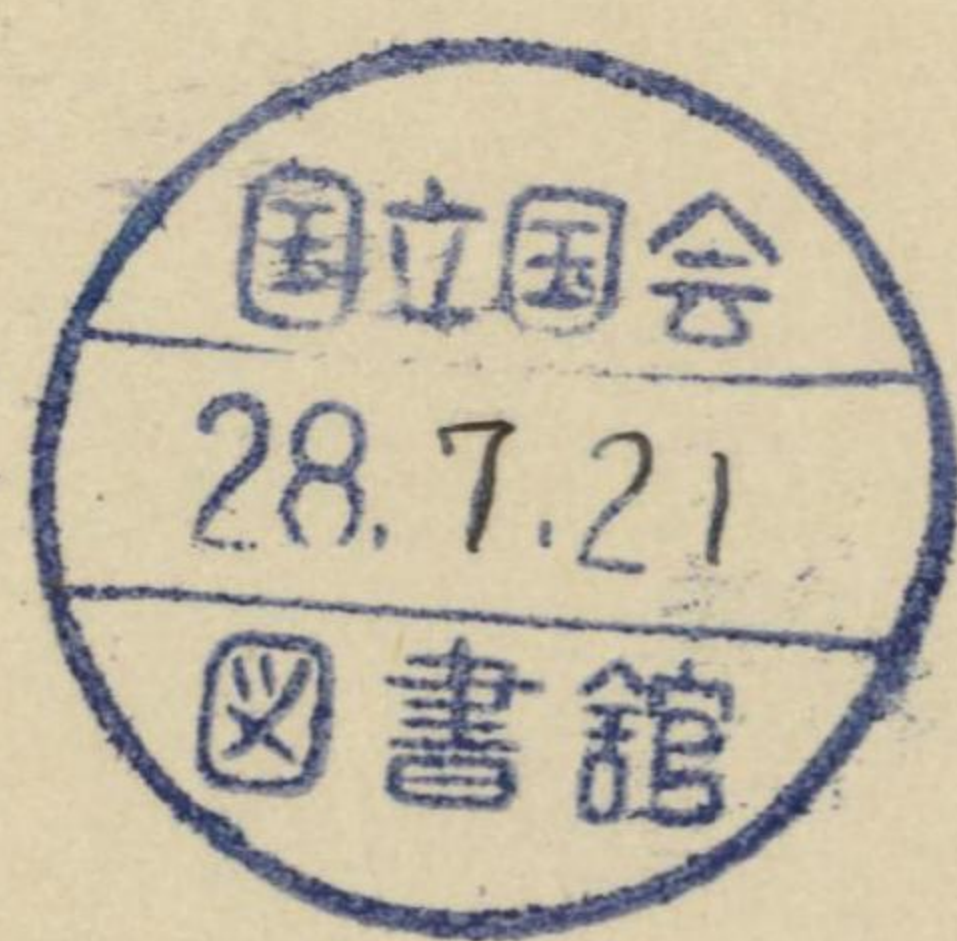


~~721.7~~
~~Y553m~~



~~724.2~~
~~Y553m~~
~~(15)~~

724.2
Y553m



300631

孤坐遊谷 知禮

李人寫

岩の描法・用筆は曲筆を用ひてもよい。曲筆

を嫌ふ人もあるが、曲

筆あつて直筆の意義が

認められる。筆を以て

土を捏ねて固める意で

ある。但し、墨の濃淡

に意を用ひること。岩

描の乾いた後に渴筆を

使用する妙である。

濃き

渴筆

以て

線を強

める

花の描法は

前述と同じ

有れば略す



五

七

六

四

三

一

七

六

五

四

三

二

一

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

岩の描法・用筆は曲筆
 を用ひてもよい。曲筆
 を嫌ふ人もあるが、曲
 筆あつて直筆の意義が
 認められる。筆を以て
 土を捏ねて固める意で
 ある。但し、墨の濃淡
 に意を用ひること。岩
 描の乾いた後に渴筆を
 使用すると妙である。

濃き
 渴筆
 吹て
 線を強
 める

花の描法は
 前述と同じ
 有れば略す



真用する
計の辨い
こ意を用
ある。町
士が証は
賜めらけ
筆もして
を載ふ人
を田つら
谷の耕芸

孤坐幽谷
豈願世人
知禮
本主人寫



新畫紙紅牡丹芳佳名喚也百宛王

考道人寫形術兼出版社



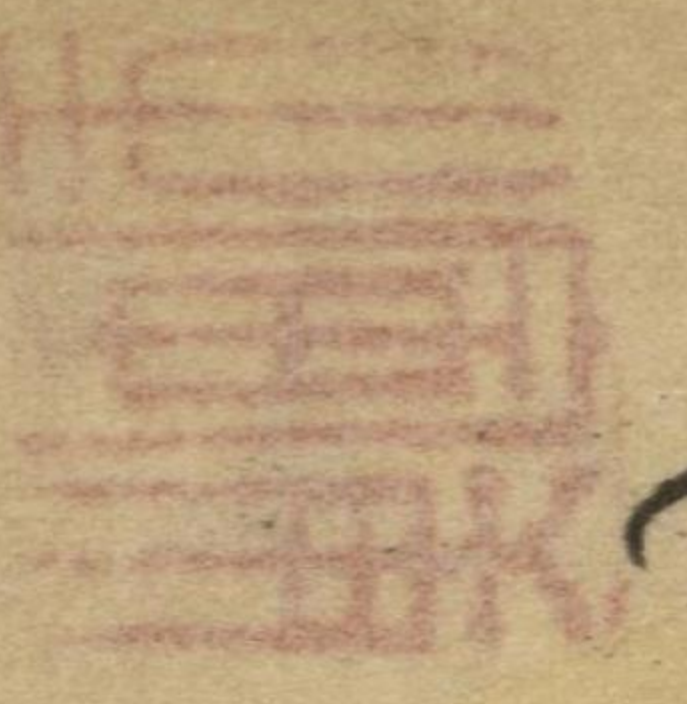
花彩は洋紅を淡く彩色
筆に着けて筆先に洋紅
の少し濃い目の色を引
かけて花瓣を一枚々々
彩色する。

花心は
最後子
黄毛
用の
花心の

葉の脚は
洋紅少し
墨の量
少く描く

葉の系統は但し

葉の濃淡の注意あり

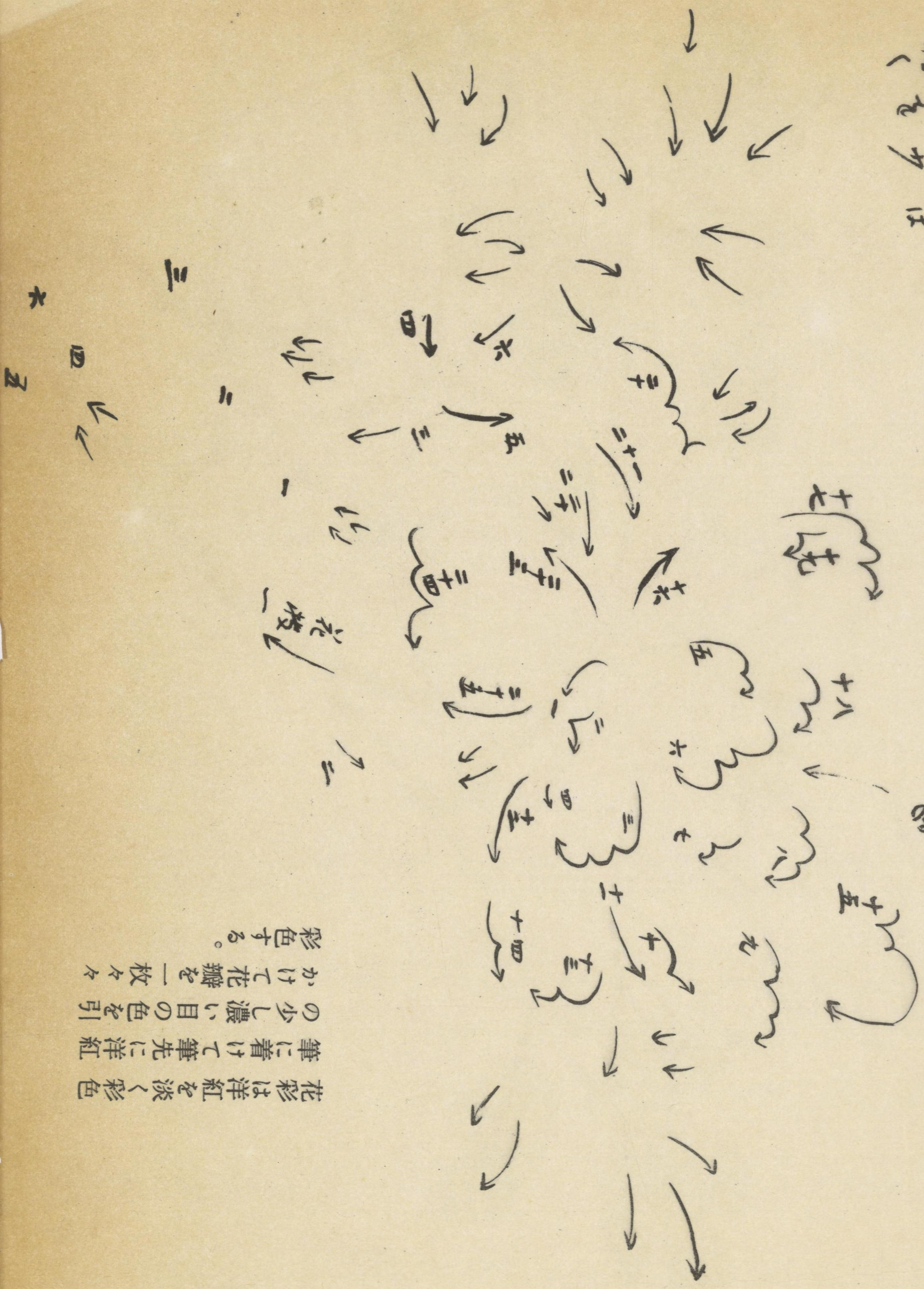


花心は
最後子
黄を
用ひ
花心の

花心は
洋紅少
量の墨を
使ひて描く

花心は単純なり但し
花心の濃淡の注意あり

花彩は洋紅を淡く彩色
筆に着けて筆先に洋紅
の少し濃い目の色を引
かけて花瓣を一枚々々
彩色する。



三
四
五
六



畫畫張紅始吐芳佳名喚作百冠王
 方道人寫於德兼山社



正也
 概心
 可及級中
 治百天

正也
 概心
 可及級中
 治百天

菊の画法

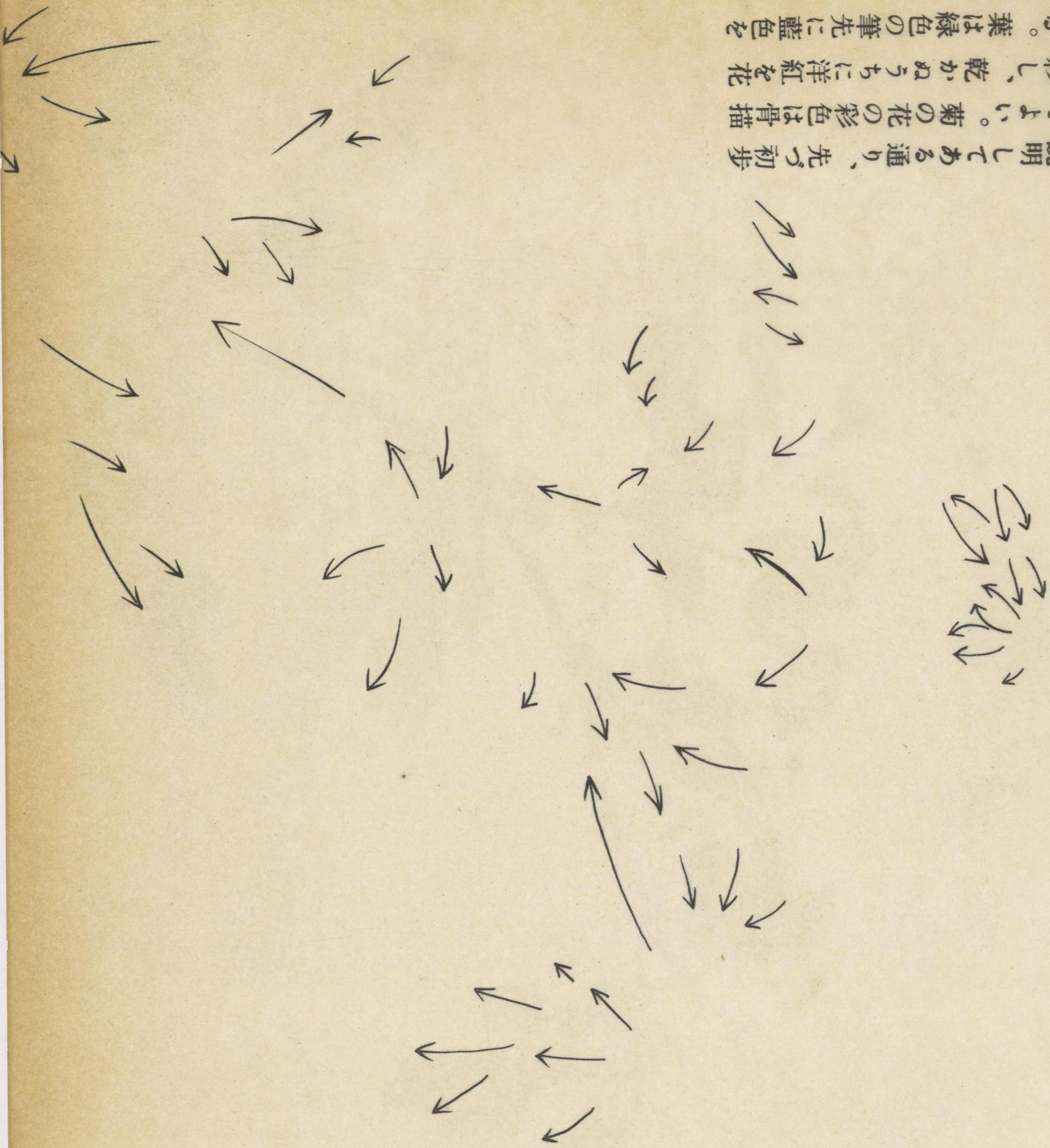
菊の画法 兼山



繪具の事は別に説明してある通り、先づ初步の時は箱入顔料でよい。菊の花の彩色は骨描きの上へ雌黄を彩し、乾かぬうちに洋紅を花の中心部に彩する。葉は緑色の筆先に藍色を少し引かけて圖解の如く筆を運ばばよい。葉脈は藍色で描く。萼も同じ。



繪具の事は別に説明してある通り、先づ初歩
の時は箱入顔料でよい。菊の花の彩色は骨描
きの上へ雌黄を彩し、乾かぬうちに洋紅を花
の中心部に彩する。葉は緑色の筆先に藍色を
少し引かけて圖解の如く筆を運ばばよい。
葉脈は藍色で描く。萼も同じ。



葉面お藍色に紺く
少くはむむの圖繪
の中心暗に染する
まの土へ鞠黄を深
の朝お露入蘭株の
餘具の事お眼に張

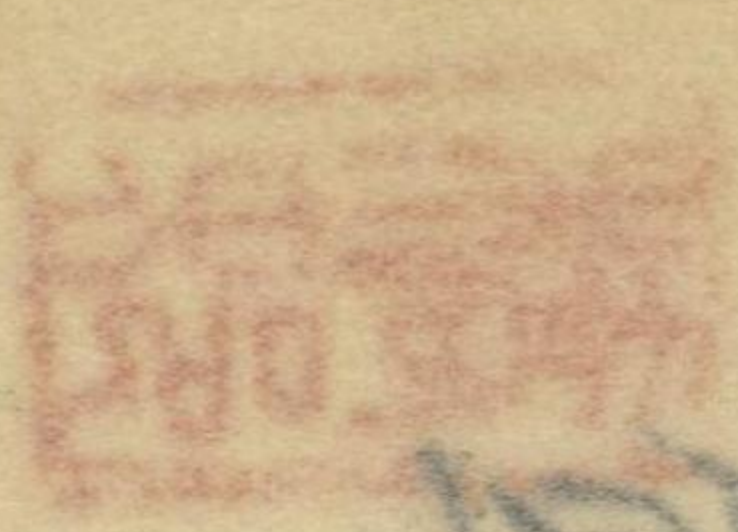


山阿彌

阿彌

香山人寫花行兼山五

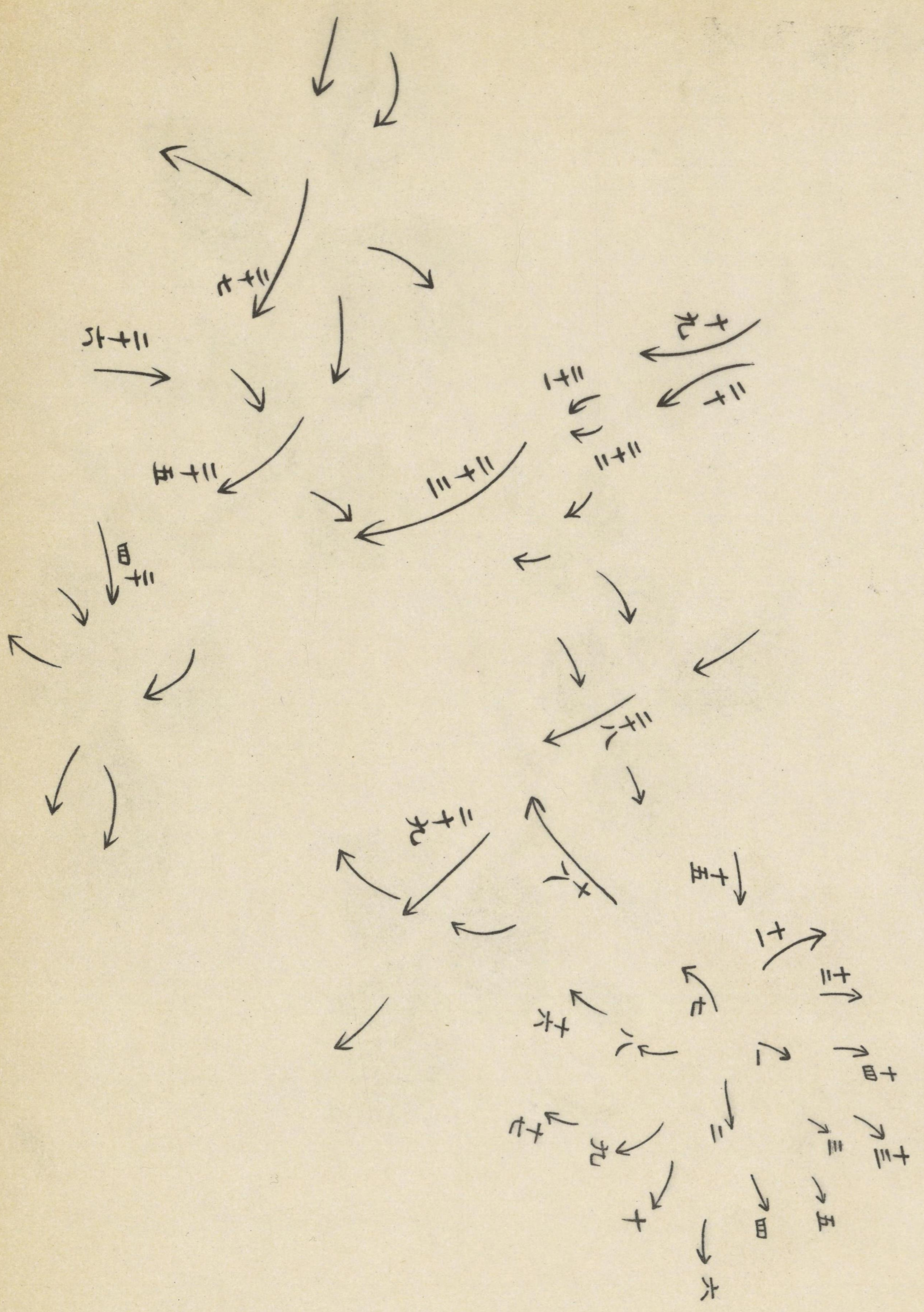
木向香花記自正

花の骨格




此の描法を「没骨法」といふ。即ち骨描なしに直接色を以て描く。墨畫を色で描く差異だけである。花は雌黄に洋紅を筆先に引かけ、一瓣々々圖解の如き筆の運びで描く。葉の描法も彩色菊花と同様。

此の描法を「没骨法」といふ。即ち骨描なしに直接色を以て描く。墨畫を色で描く差異だけである。花は雌黄に洋紅を筆先に引かけ、一瓣々々圖解の如き筆の運びで描く。葉の描法も彩色菊花と同様。





花 之 人 也



一 瓣 々 々
墨 畫 之 句
其 之 描 法

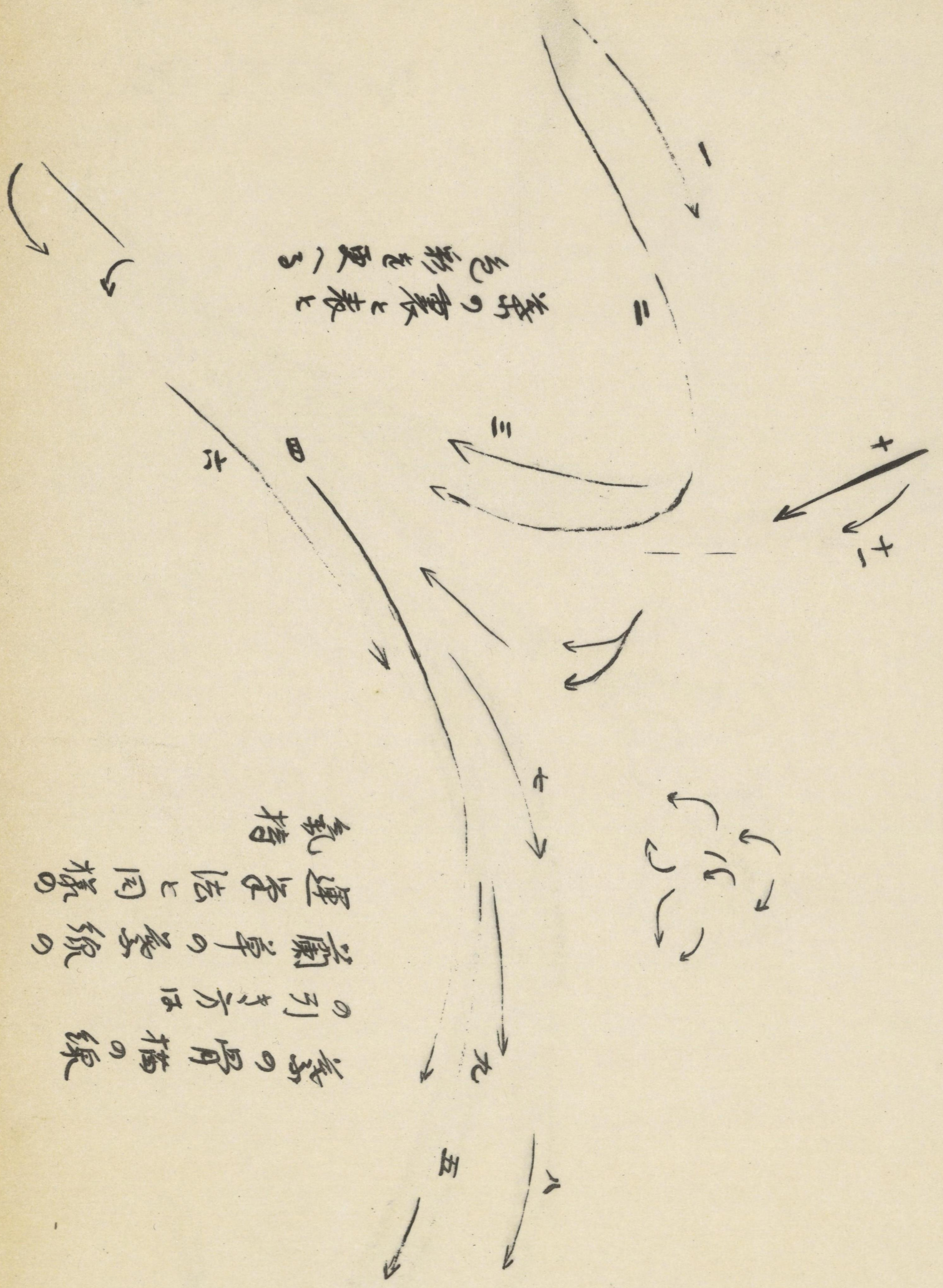


於傳兼山社
於定人寫



葉の裏と表と
色彩を更へる

葉の骨格の線
の引き方は
蘭草の葉の線
の運び法と同様の
氣持





画
人
之
行
也
社



蘭者王者香不伍藝象草

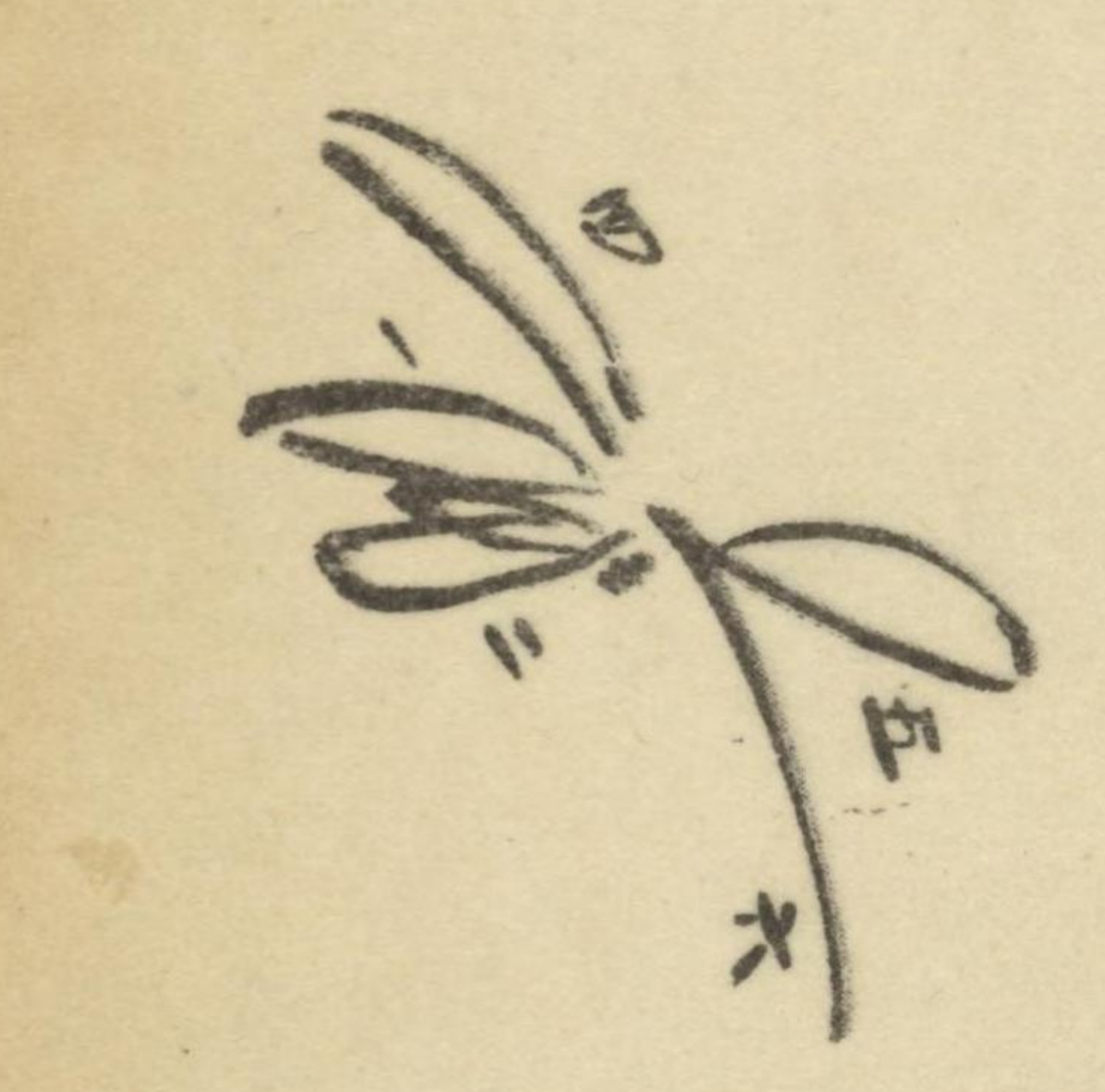


この蘭を「風蘭」といふ。風に弄さるゝ葉の趣を表現するものである。蘭花も軽く筆を運ぶのがよい。花心の心字點は省略してよい。

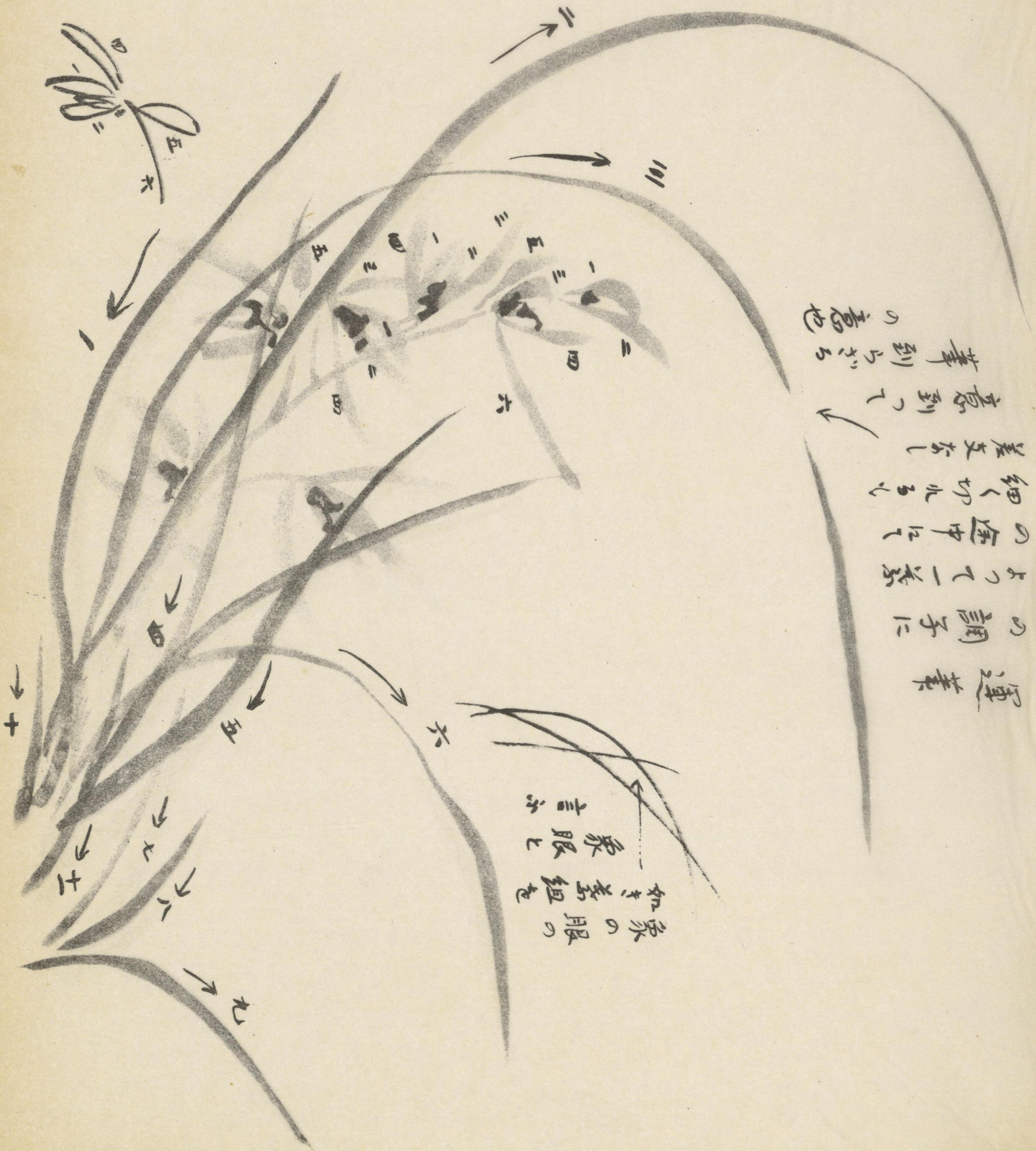


運葉
の調子に
よつて一葉
の途中にて
細く切れる
差支なし
意到つて
筆到らざる
の意也

象の眼の
如き葉組を
象眼と
言ふ



この蘭を「風蘭」といふ。風に弄さるゝ葉の趣を表現するものである。蘭花も軽く筆を運ぶのがよい。花心の心字點は省略してよい。



蘭者王者香不伍藝象草
有名人易修德象山五



蘭者王者香
易修德象山五

蘭者王者香
易修德象山五
蘭者王者香
易修德象山五
蘭者王者香
易修德象山五
蘭者王者香
易修德象山五

清風依竹起

竹主人富山君

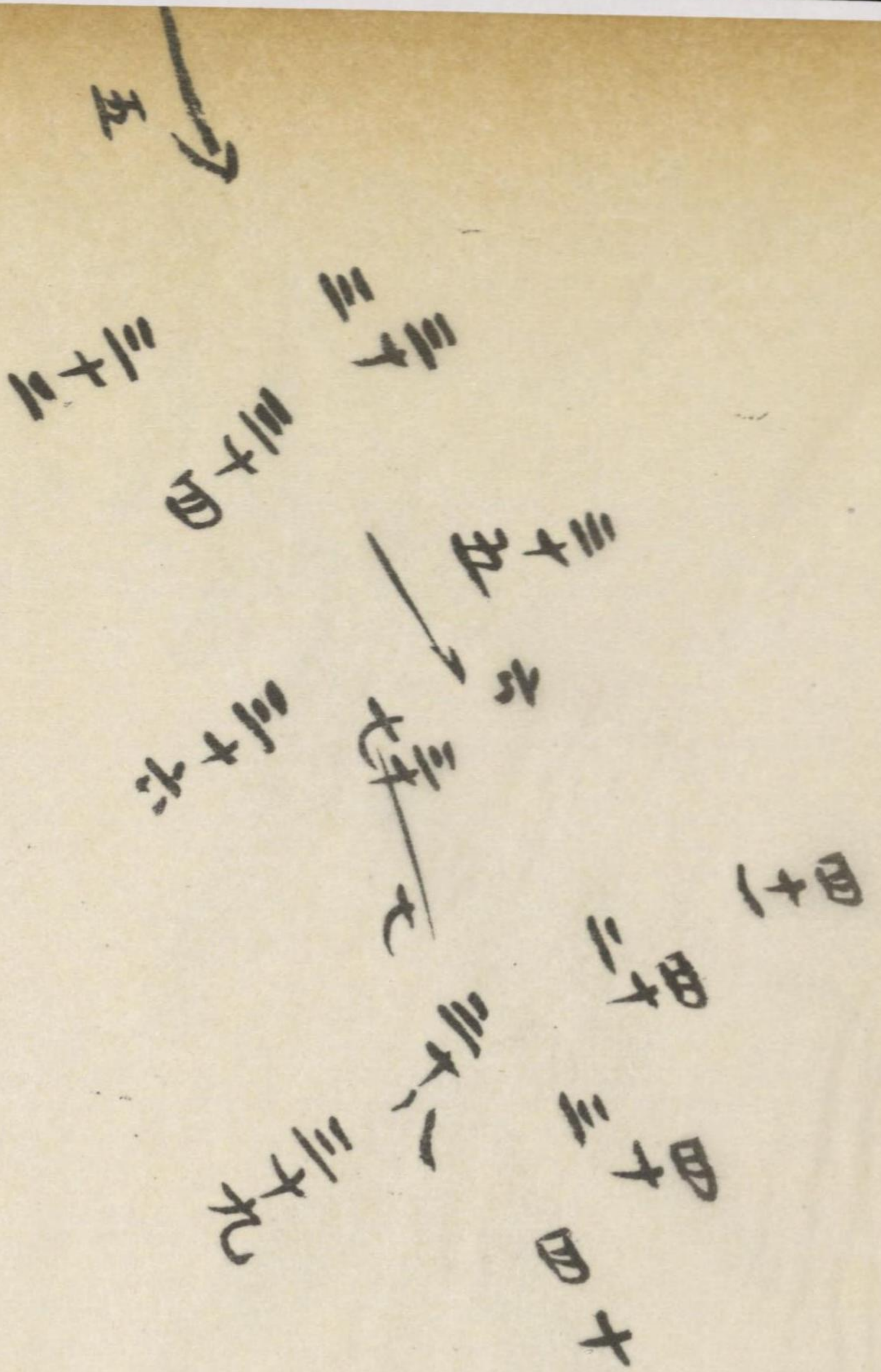
竹叢山社



竹を畫くことは四君子の中でも最も
 難かしいとされてゐる。
 心を廣やかにして、宜しく姿勢を正
 し、水の流れる如き運筆法を會得す
 る練習が肝要である。
 古人も「胸中成竹」といつて、竹の
 やうな直情な氣持で懸腕直筆でなけ
 れば竹は描けない。

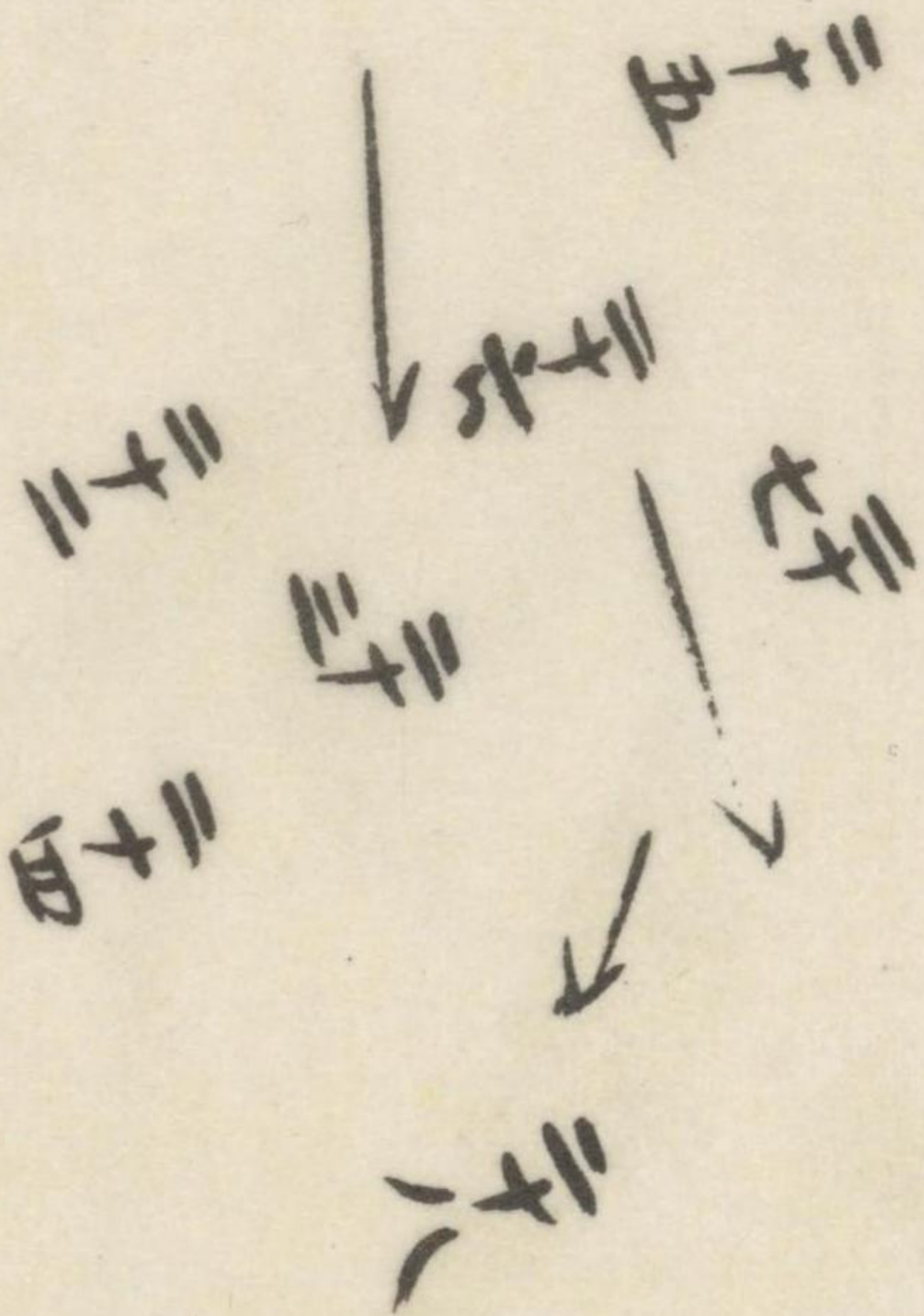


竹を畫くことは四君子の中でも最も
 難かしいとされてゐる。
 心を廣やかにして、宜しく姿勢を正
 し、水の流れる如き運筆法を會得す
 る練習が肝要である。
 古人も「胸中成竹」といつて、竹の
 やうな直情な氣持で懸腕直筆でなけ
 れば竹は描けない。

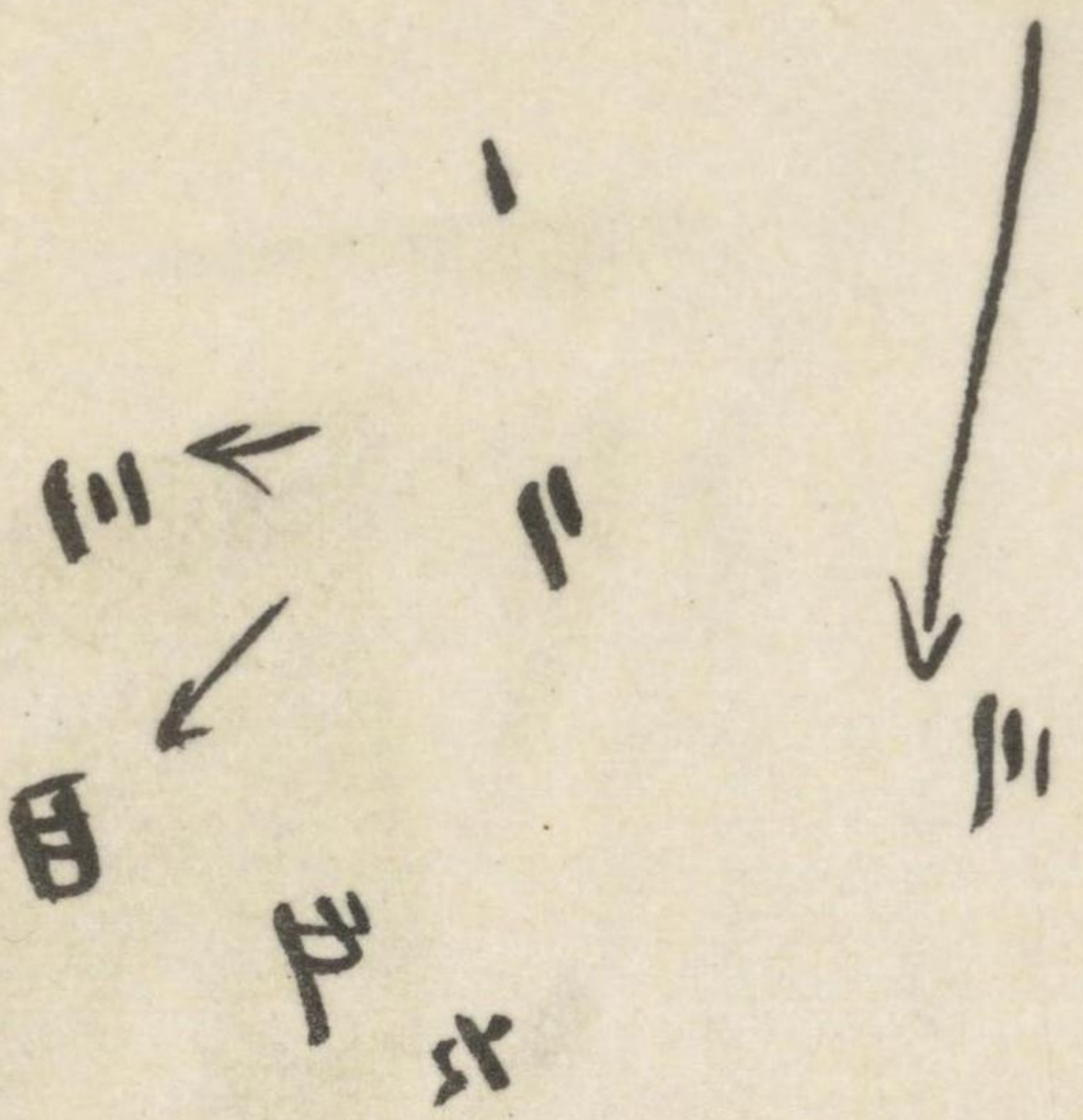


乙字法
 順序

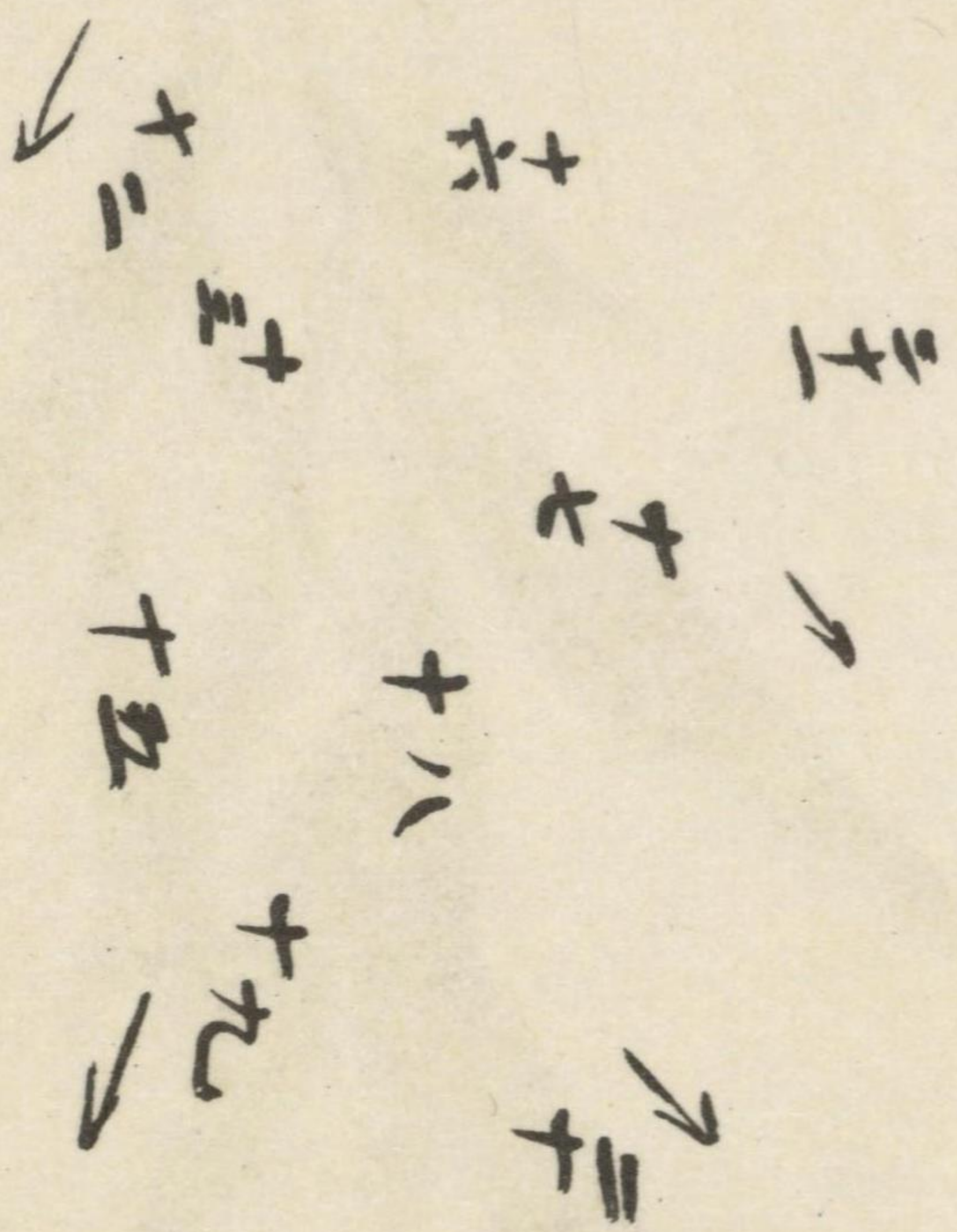
順序
 一 二 三



八字法



金魚尾
 筆法



魚尾
 筆法



Red square seal impression in the upper left corner.

清風依竹起

高士人馬山君

竹行象山社

Red square seal impression below the signature.

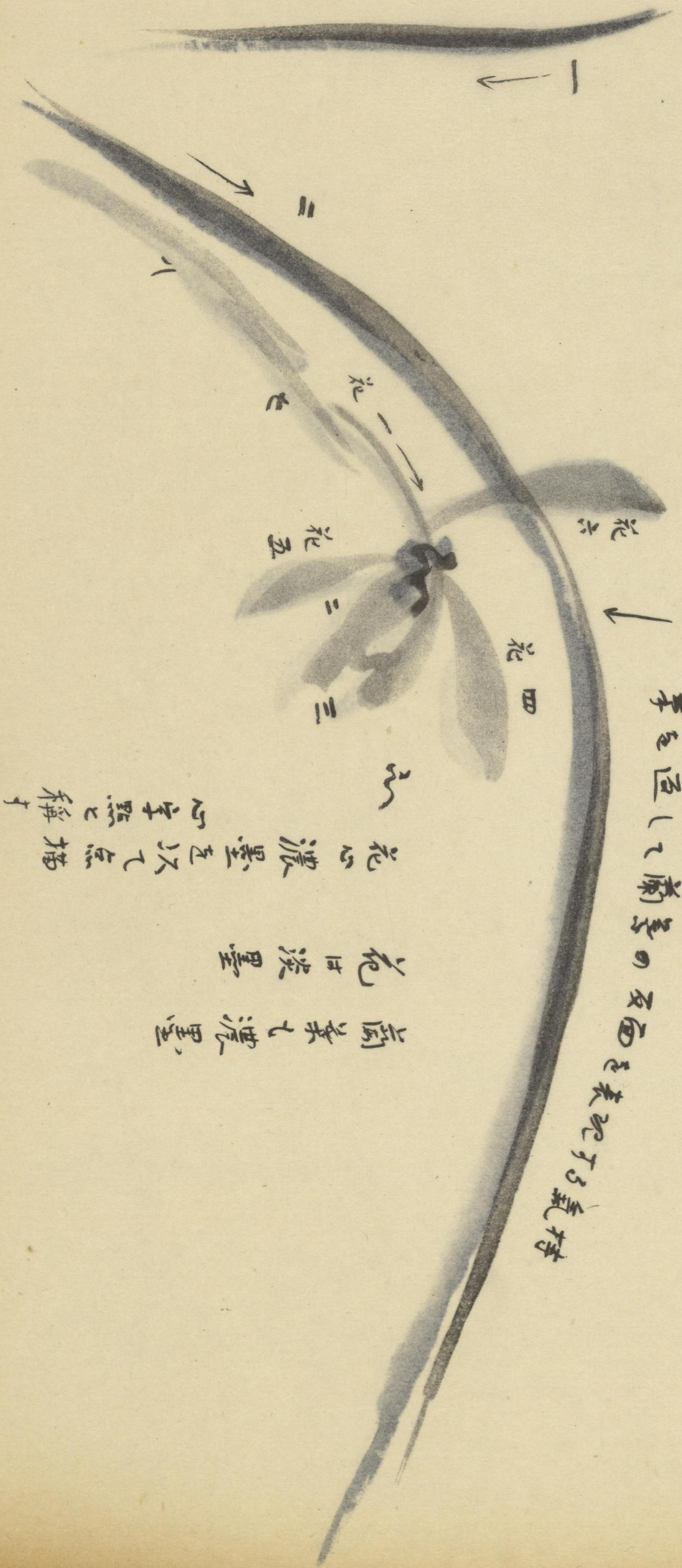
竹の畫くことお目
兼せしころちひ
心を賣みせこつ
つ、水の流れる
る蘇賢は用受つ
古人も一圃中如
みこふ直計る藤
ひお竹お甜ひさ

Handwritten notes and diagrams in the right margin, including mathematical-like symbols such as 目+, 目+, 目+, 目+, 目+, and 目+.

蘭葉を描く運筆法は白雲の飛ぶが如く、水の流れるが如く、虚心坦懐、無心の境を行くが如く筆を運ぶ練習を要する。これを會得すれば行雲・流水を描く場合、或は人物の衣の線を描くの用いるとよい。

猶、圖解した如く、筆を返して蘭葉の風に翻る状態を表現する。蘭葉を多く描く時に、最も心掛けなければならぬ運筆法である。

芽を返して蘭葉の反面を表現する氣持



蘭葉は濃墨
花は淡墨

花心濃墨を以て点描
心字點と稱す

一花二葉



蘭葉を描く運筆法は白雲の飛ぶが如く、水の流れるが如く、虚心坦懐、無心の境を行くが如く筆を運ぶ練習を要する。これを會得すれば行雲・流水を描く場合、或は人物の衣の線を描くの用いるとよ

い。

猶、圖解した如く、筆

を返して蘭葉の風に纏

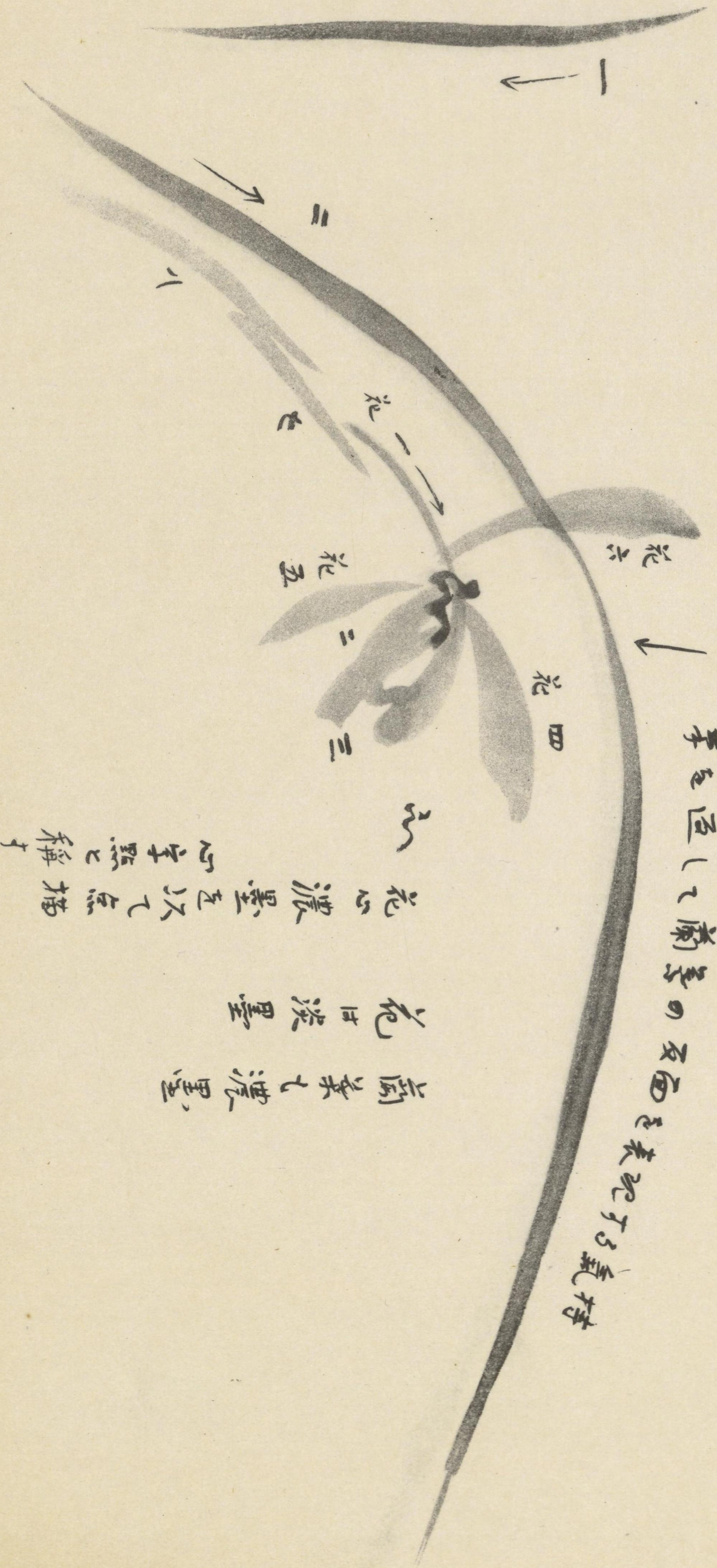
る状態を表現する。蘭

葉を多く描く時に、最

も心掛けなければなら

ぬ運筆法である。

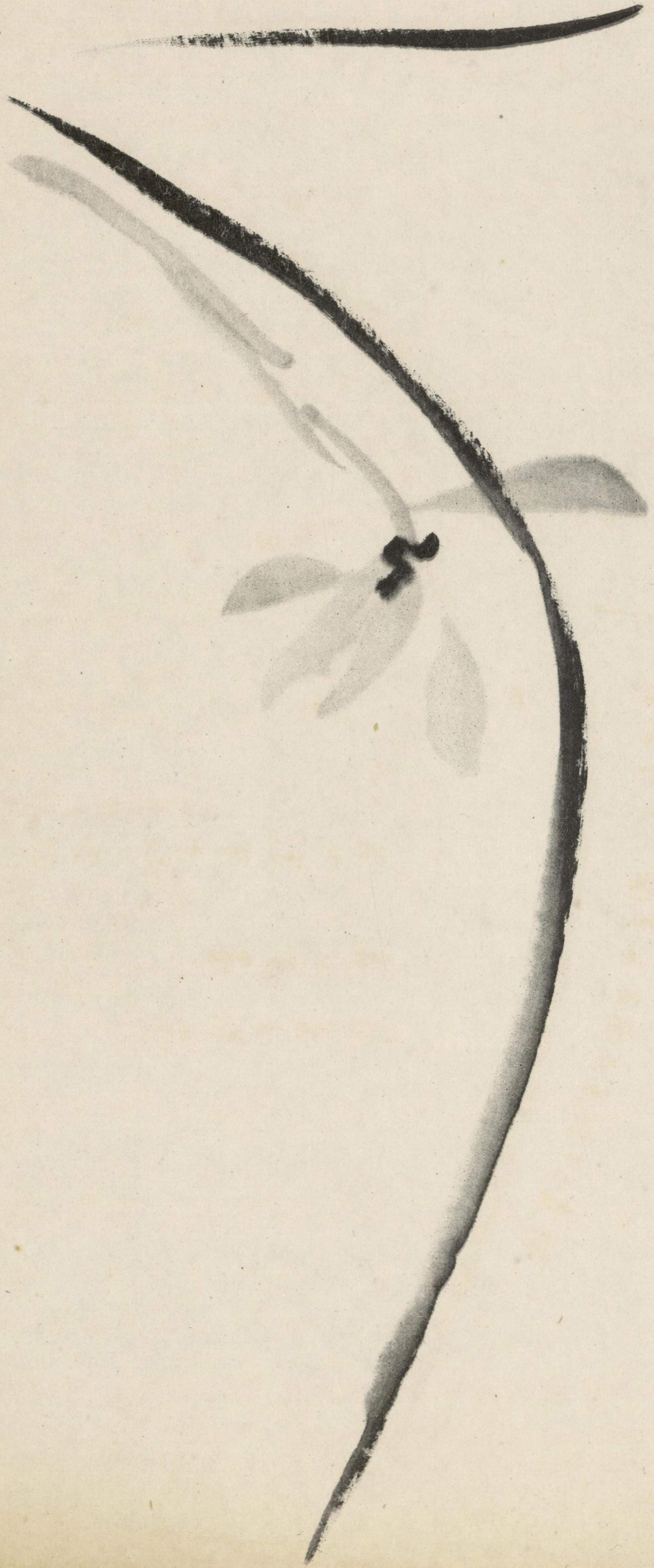
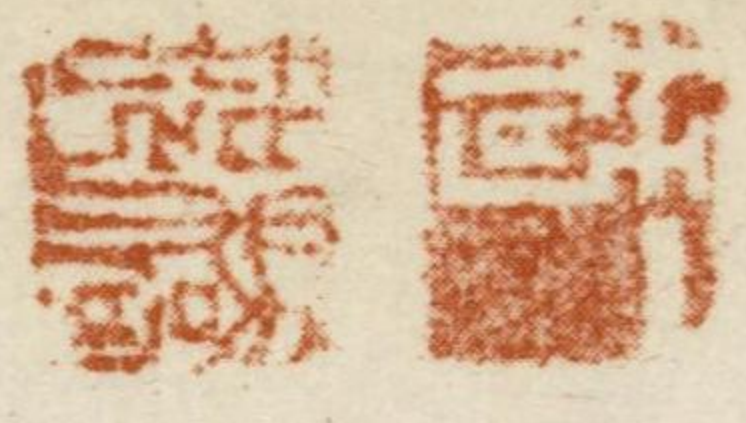
筆を返して蘭葉の反面を表現する氣持



蘭葉は濃墨
花は淡墨

花心濃墨を以て点描
心字點と稱す

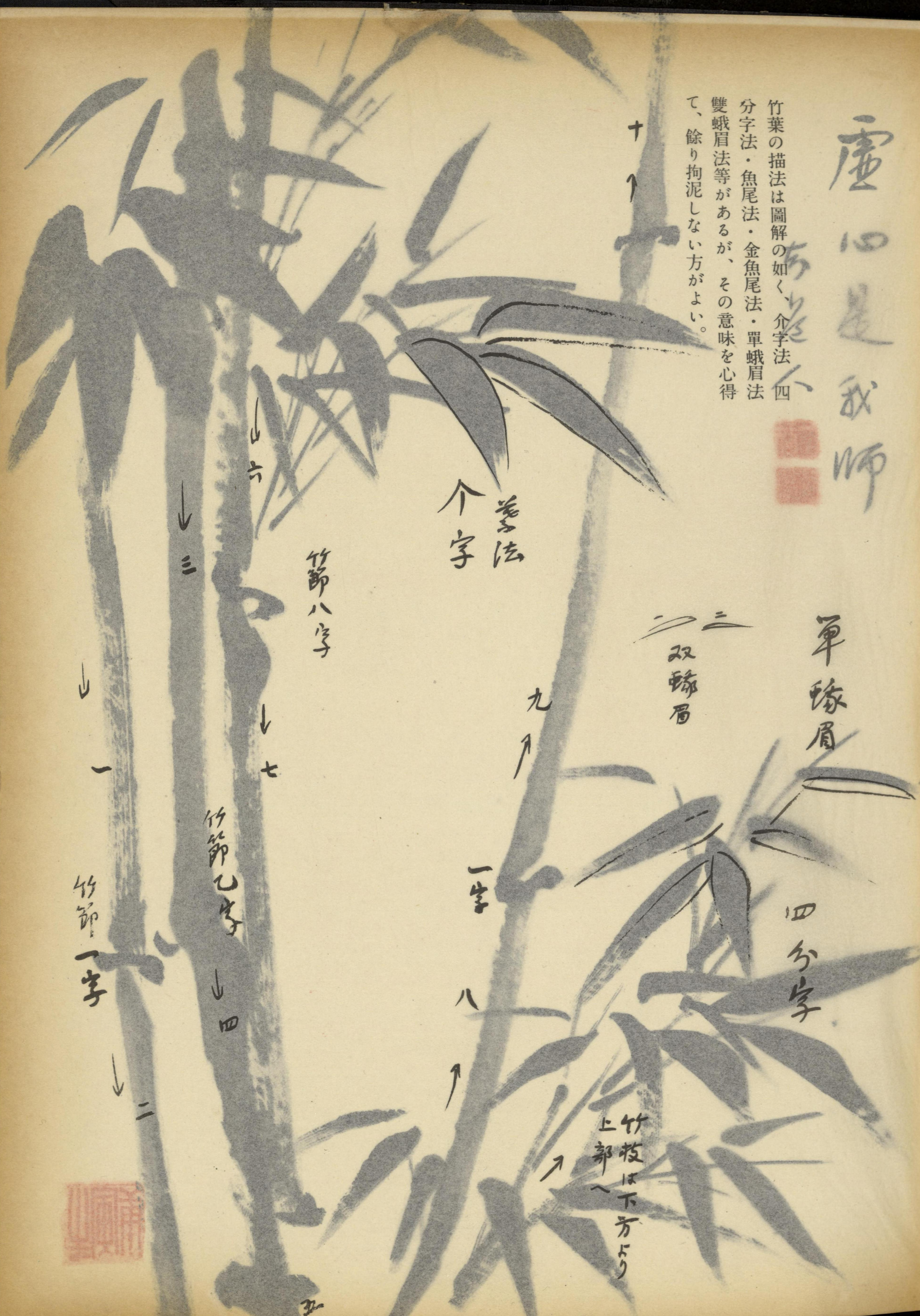
一花二葉 一人



此畫筆法之妙
も小楷に似たり
葉を多く畫し
る其意を委實
も表しつゝ蘭葉
の態、圖筆に
似たり。
も畫への二用
合、如し人形
の行雲・流水
たる。此の畫
は筆を數に
對、無心の眞
流れるは、
雲の雅なは、
蘭葉を畫し、

虚心是我师

竹葉の描法は圖解の如く、介字法・四分字法・魚尾法・金魚尾法・單蛾眉法・雙蛾眉法等があるが、その意味を心得て、餘り拘泥しない方がよい。



介字法
介字

竹節八字

單蛾眉

雙蛾眉

四分字

竹枝は下方より上部へ

竹節一字



竹節七字

一字

八

九

六

三

七

四

一

一

二

十

竹葉の描法は圖解の如く、介字法 四分字法・魚尾法・金魚尾法・單蛾眉法 雙蛾眉法等があるが、その意味を心得て、餘り拘泥しない方がよい。

十 ↑



介字法

竹節八字

↓ 六

↓ 三

↓

一

竹節一字

↓

二

↓ 七

竹節乙字

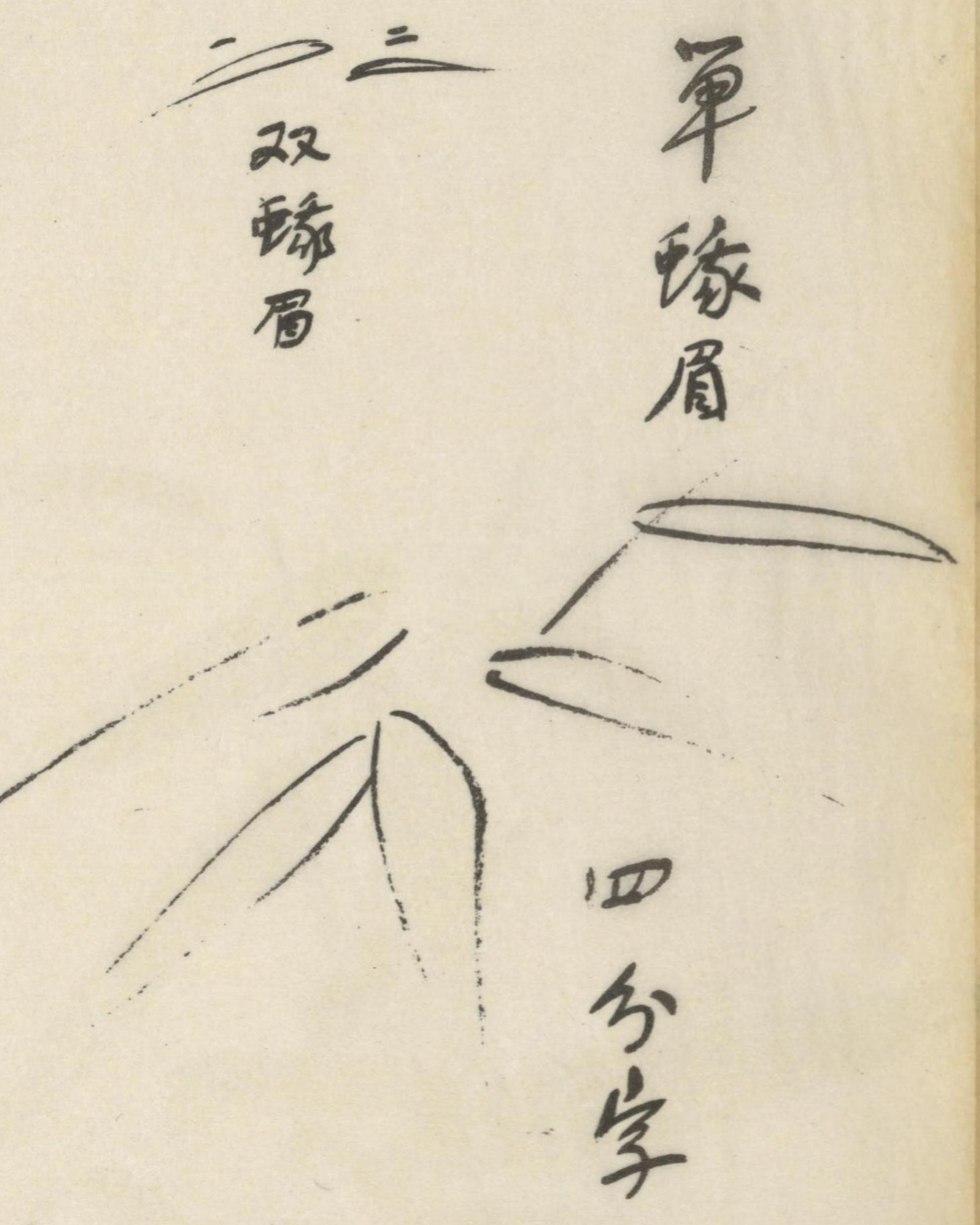
↓ 四

九 ↑

一字

八

↑



單蛾眉

四分字

二 三
雙蛾眉

竹枝は下方より上部へ

↑

竹葉の畫志は圖翰の成、介字志 四

虚心是我師

白石山人



竹葉圖

白石山人

张 玉 琅 研 不 受 磨
 竹 节 人 品 高 行 心 直
 竹 兼 少 亦 如 竹
 虎 角 枝 法



竹 节 八 字

金 鱼 尾

破 介 字
 笔 法

竹 节 乙 字

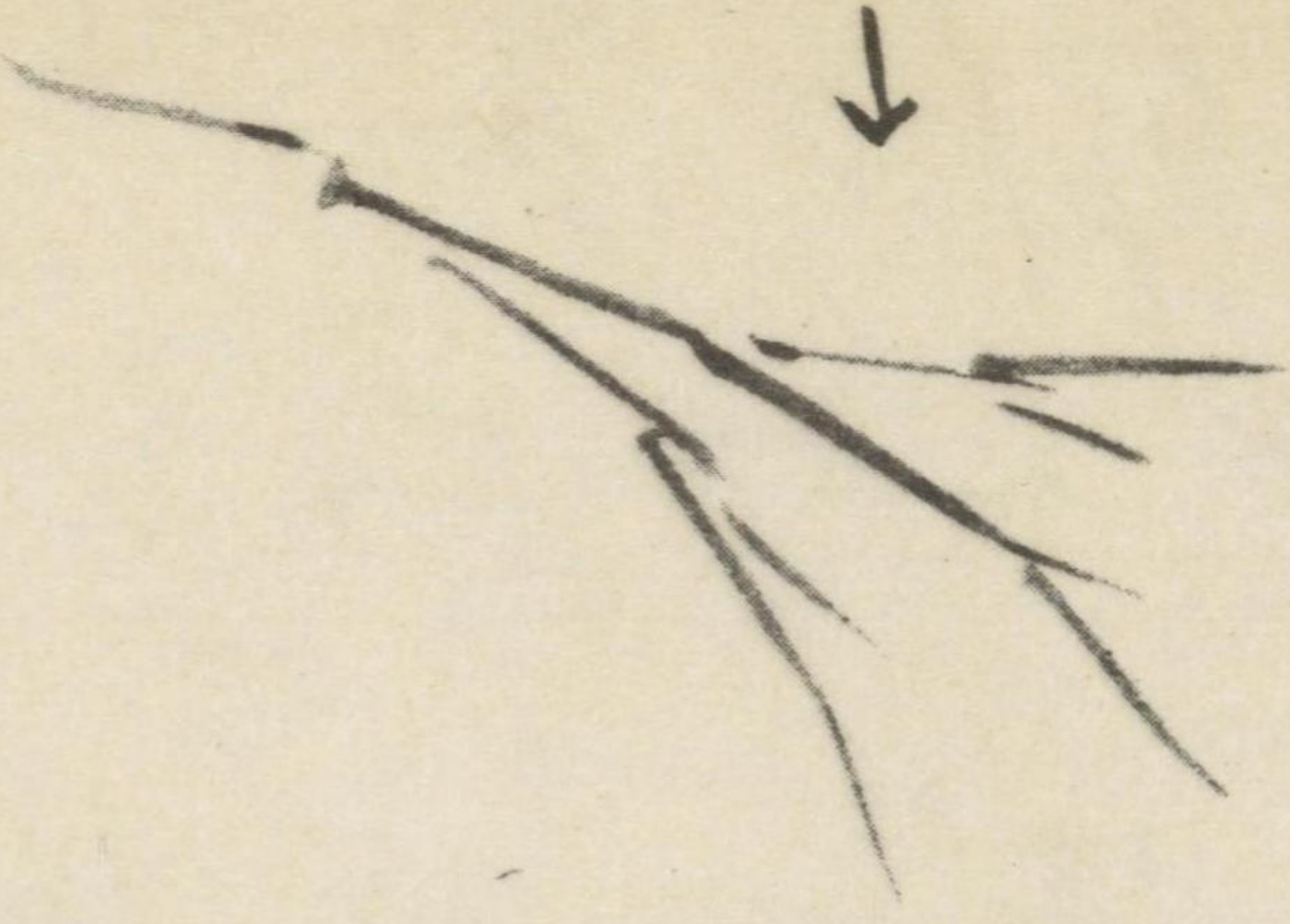
介 字 笔 法



此字个字

一

鹿角枝法

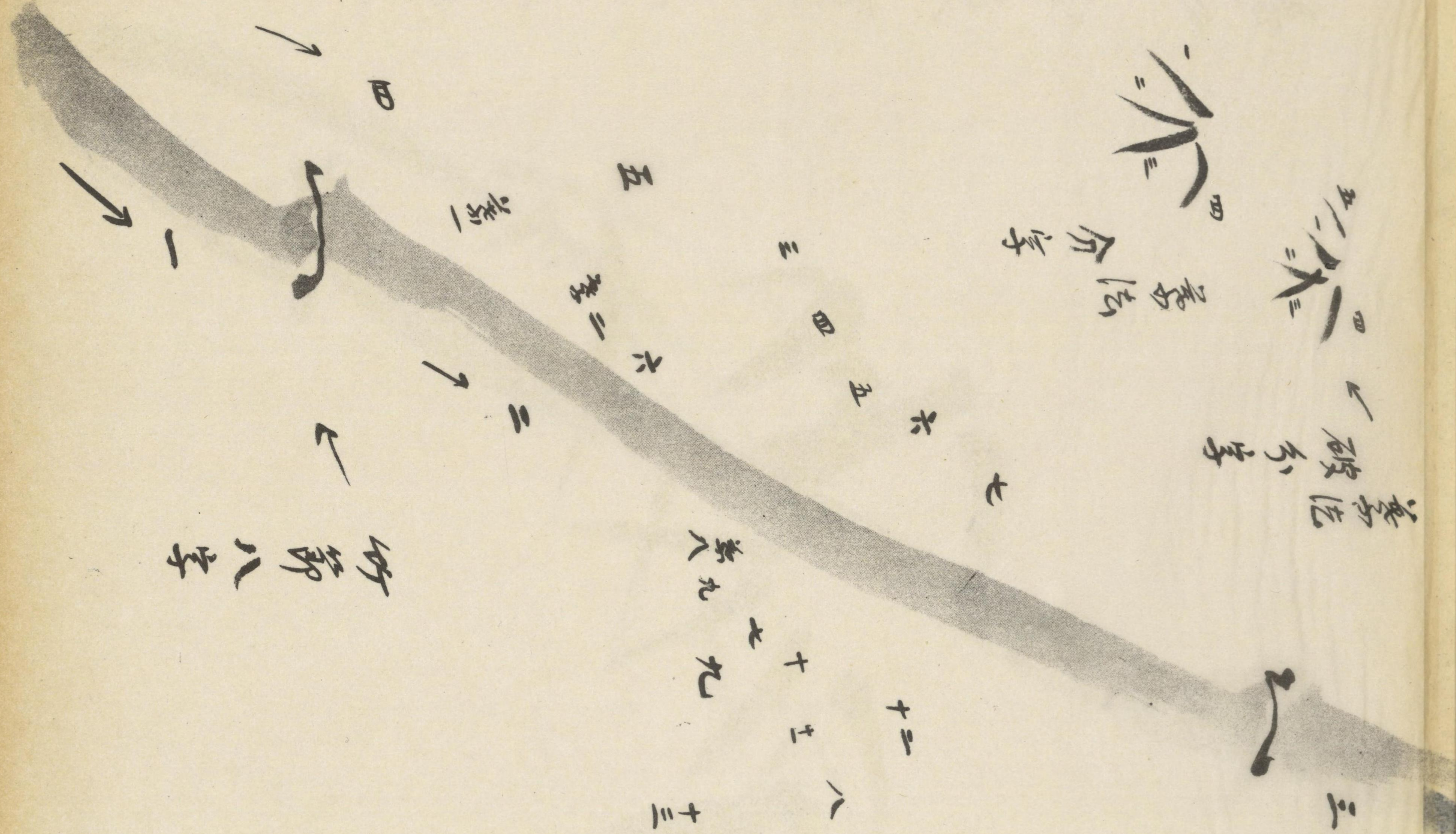


四

五

此字介字

破介字



竹節八字

竹節乙字

金魚尾

二十

二十一

二十二

十九

十八

十七

十六

十五

十四

十三

十二

十一

十

九

八

七

六

五

四

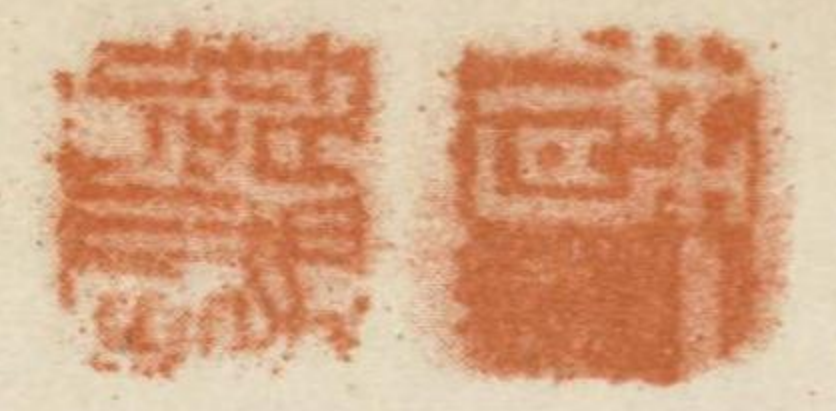
三

二

一

田

張如玉琅玕不受塵
在道人處此君於心
待兼少在古新



Handwritten notes and diagrams on the right page, including arrows and small characters.

梅枝は強く健なるを善しとするが、竹竿の健なるものと違ひ、變轉自在に、或は渴し、或は筆勢折れるが如く、硬軟多趣多様の中に凛乎とした風致を保つことが肝要である。花瓣は五瓣・三瓣・四瓣等、花の正面を表し背面を表し、自由自在に描いてよい。梅枝の運筆法を會得すれば、枯木・寒林等を描く時にその意を用ひると妙である。



花心及び萼は濃墨を以て描く
 花瓣は淡墨を以て描く
 夜梅及紅梅を描く

花心及び萼は濃墨を以て描く
 花瓣は淡墨を以て描く

花心及び萼は濃墨を以て描く
 花瓣は淡墨を以て描く

花の北面

梅枝は強く健なるを善しとするが、竹竿の健なるものと違ひ、變轉自在に、或は渴し、或は筆勢折れるが如く、硬軟多趣多様の中に凜乎とした風致を保つことが肝要である。花瓣は五瓣・三瓣・四瓣等、花の正面を表し背面を表し、自由自在に描いてよい。梅枝の運筆法を會得すれば、枯木・寒林等を描く時にその意を用ひると妙である。



花の背面

花瓣は淡墨或は中墨を以て描く

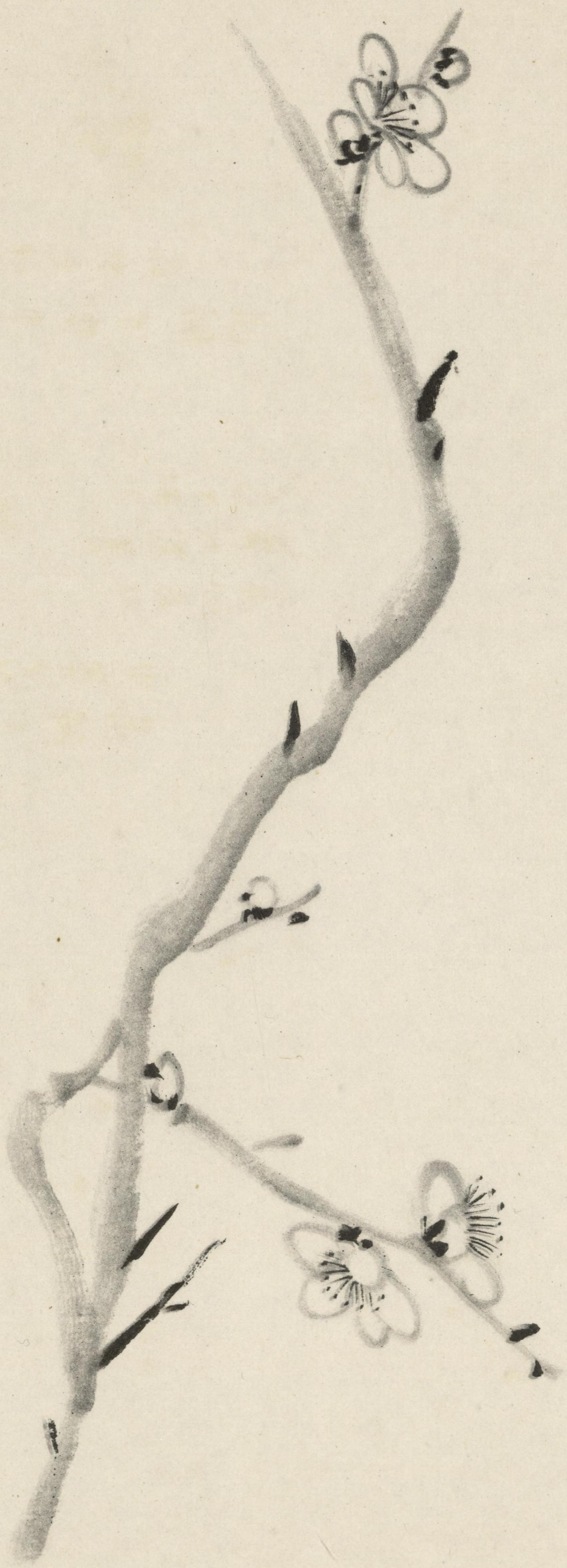
花心及び萼は濃墨を以て描く

花瓣を淡墨を以て描くは夜梅及紅梅を描く、大し



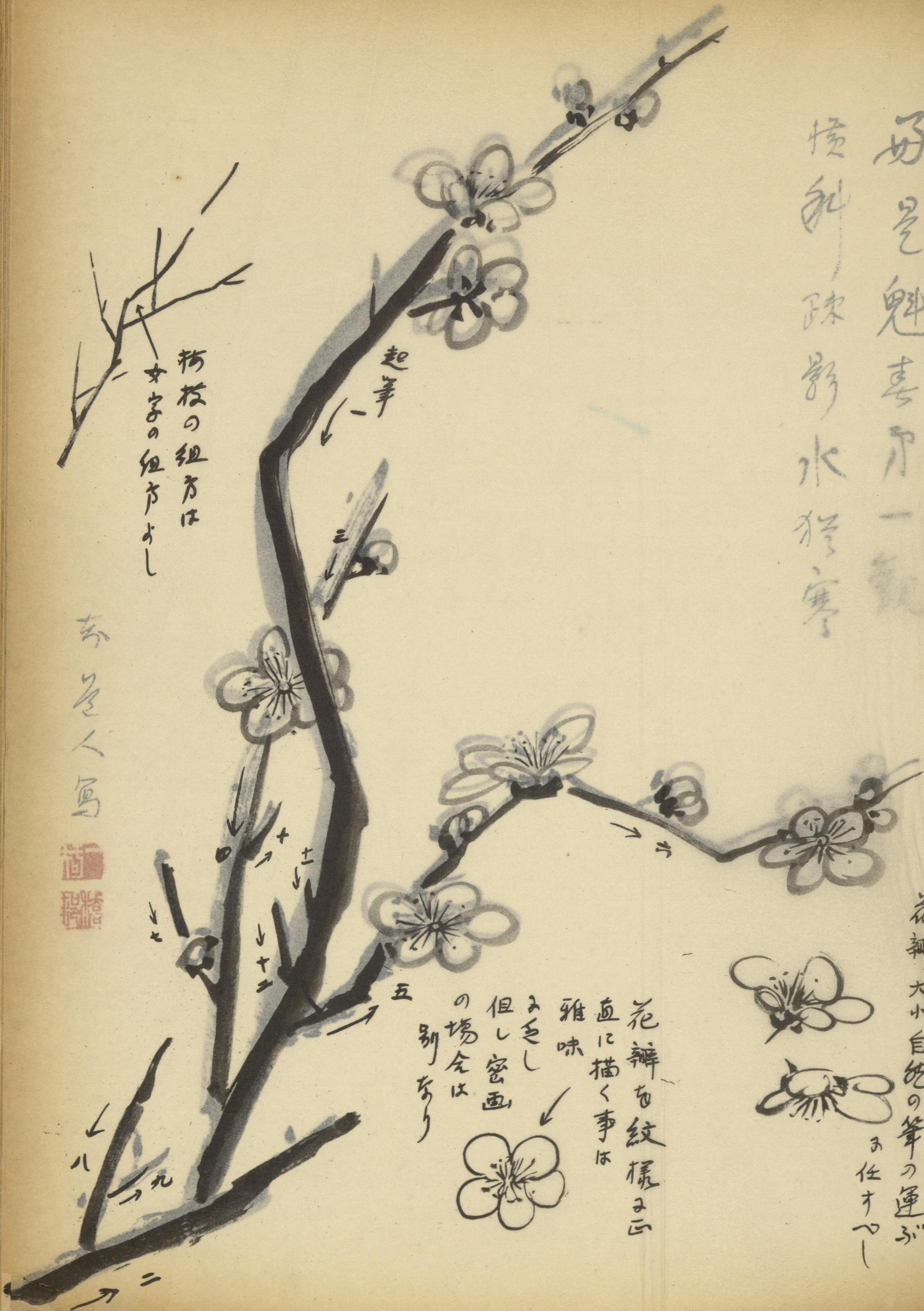
山莊
行兼
寫於
如是

一枝一花二一



一
枝
一
花
二
一

好是魁喜乃一觀
 傾斜疎影水猿寒



折枝の組方は
 文字の組方よし

起筆

春の風人画



花辨を紋様と
 直に描く事は
 雅味
 乏し
 但し密画
 の場合は
 別あり

花辨 大小自然の筆の運び

み任すべし



枝の組方は
 文字の組方よし

起筆

三

四

五

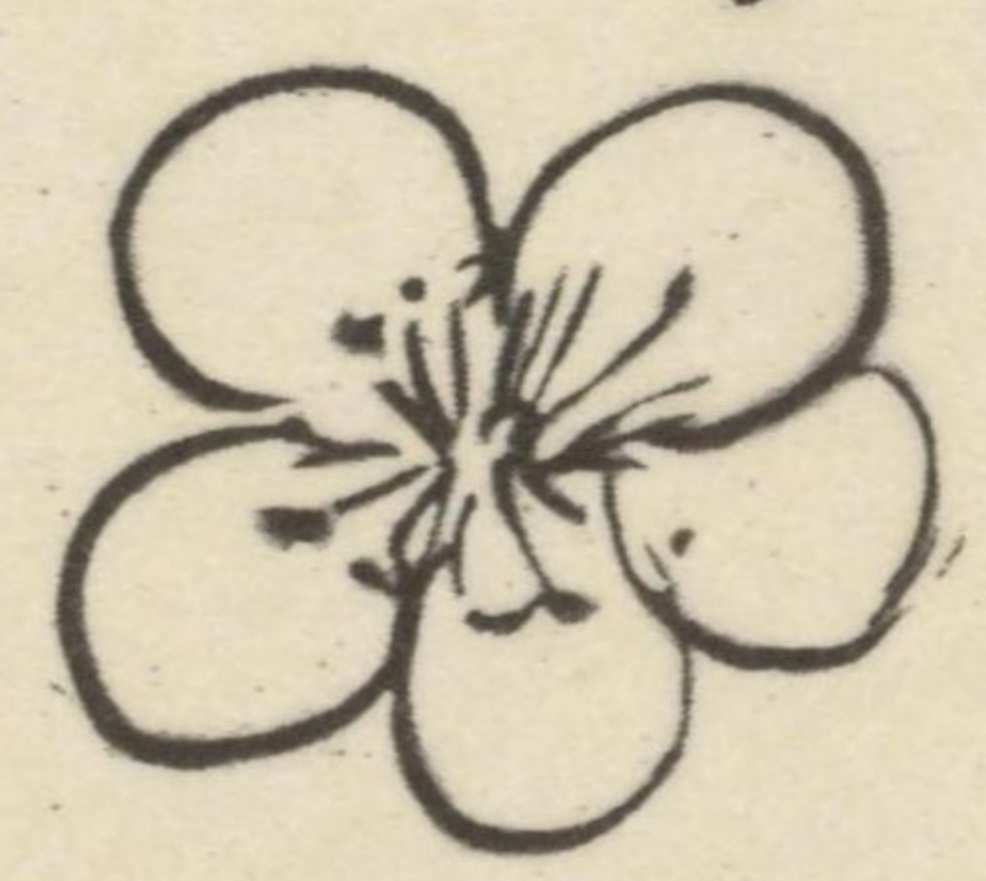
五

八

九

二

花辨を紋様ま
 直に描く事は
 雅味
 み乏し
 但し密画
 の場合は
 別あり



花辨 大小自然の筆の運び
 み任すべし

好是魁喜乃一觀
橫斜疎影水猶寒



古道人寫



行藏大自若已解已明心



花様・萼・花心は前述の通り。梅枝の渴筆法は、
 最初の用墨の乾き上りの調子の都合で、圖解の如
 く渴筆を用ひて梅枝を強めることがある。

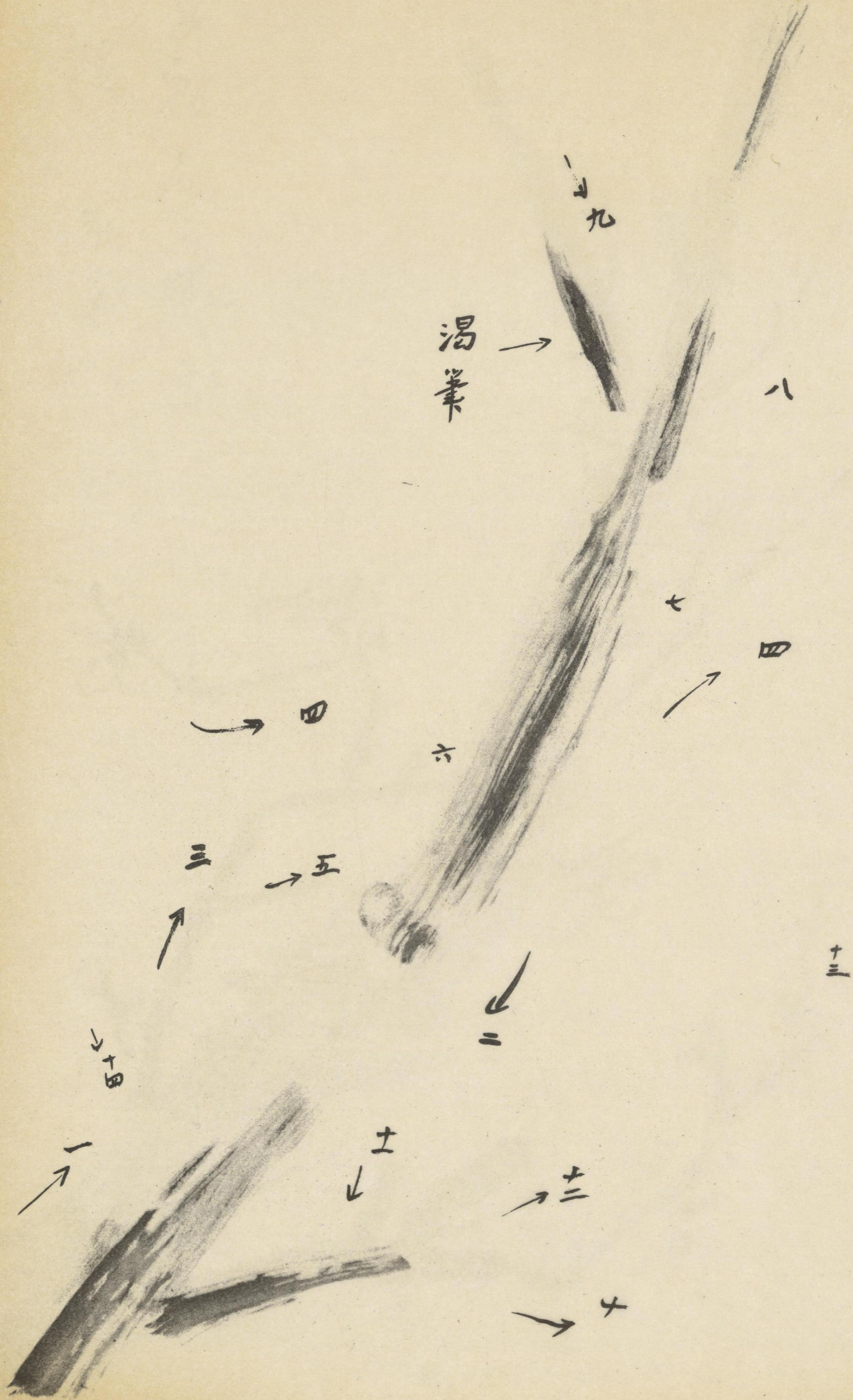
雪裡梅玉
 作 松 村 冬 人



渴筆



花様・萼・花心は前述の通り。梅枝の渴筆法は、
最初の用墨の乾き上りの調子の都合で、圖解の如
く渴筆を用ひて梅枝を強めることがある。



ノ墨筆を用ひて蘇好を距ぬることある。
景財の用墨の薄き上りの馬子の猪合丁、圖翰の成
蘇好・尊・芥心お南紙の蘇好。蘇好の墨筆志お、

雪裡
梅玉
作
松

冬
冬
人



菊を描くには先づ花から筆を起す。花といつても仰ぐもの、俯すもの、垂れるもの、それぞれの面白さがある。
次に菊枝の線を引き、次に葉を描く。葉は濃いあり、淡いあり、その用墨の妙味を出すことに注意。墨に五彩あり。用墨の濃淡の變化によつて色彩を感じるので、そこに墨畫の妙味がある。



花心
菊花點

隱逸
芳聲
薰微
歲

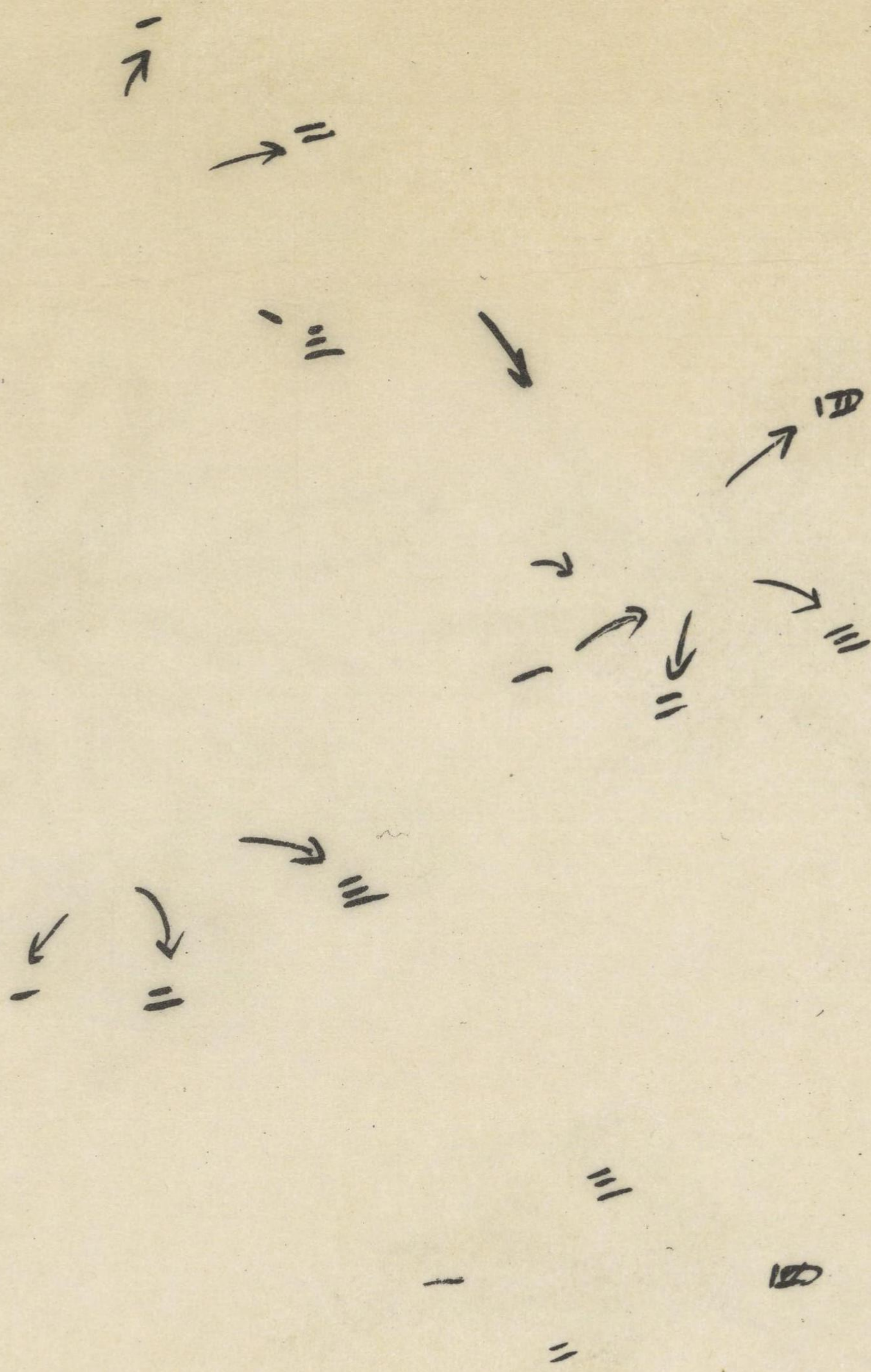
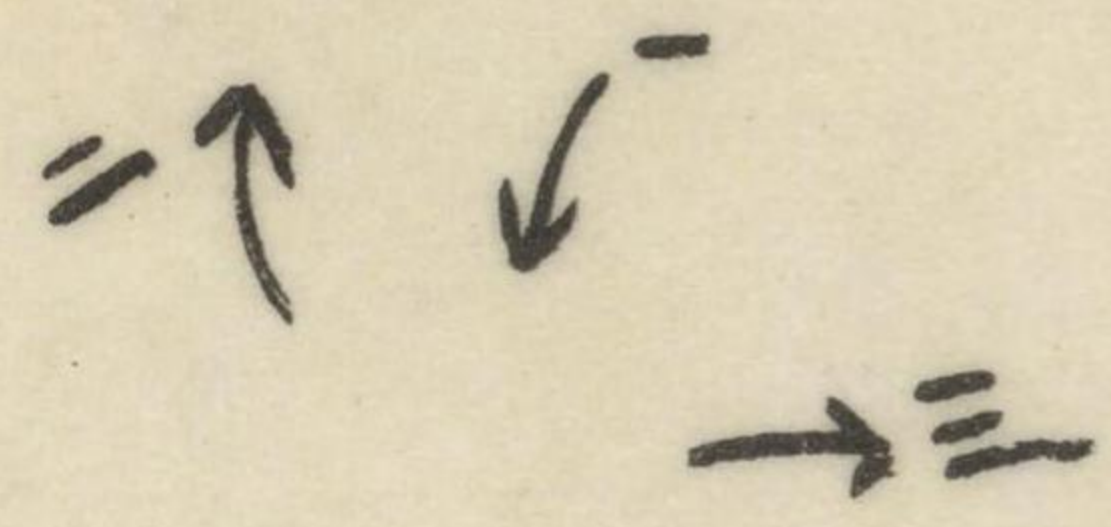
花瓣及花枝は淡墨を以つて描き葉筋は生乾きの際子濃墨を以つて描く花

壬午
高道人画

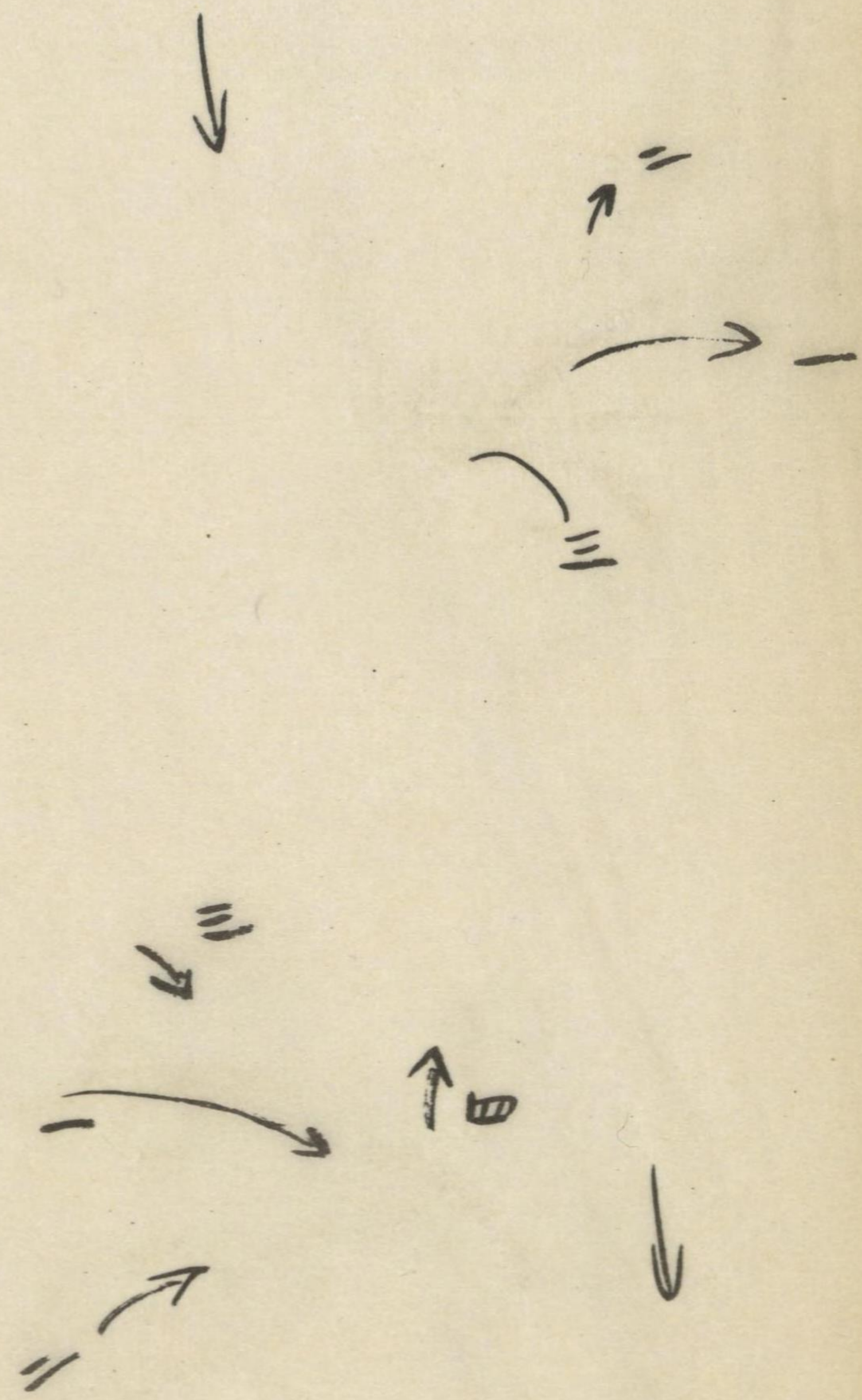


菊を描くには先づ花から筆を起す。花といつても仰ぐもの、俯すもの、垂れるもの、それぞれの面白さがある。次に菊枝の線を引き、次に葉を描く。葉は濃いあり、淡いあり、その用墨の妙味を出すことに注意。墨に五彩あり。用墨の濃淡の變化によつて色彩を感じるので、そこに墨畫の妙味がある。

花心
菊花點




花瓣及花枝は淡墨を以つて描き葉は中墨を以つて描き葉筋は生乾きの際濃墨を以つて描く



二、墨の濃淡を懸けるの丁、墨の濃淡の妙未だある。
 の用墨の妙知を出すこと、注意。墨の正深あり。用墨の濃淡の變化
 尤も葉の懸る所も、尤も葉を掛く。葉の懸る所、葉の懸る所、葉
 の、垂れるもの、葉の懸る所の面白きはある。
 葉を掛くこと、葉を掛く筆を掛す。葉の懸る所、葉の懸る所、葉を



人足法高花
 隱逸
 芳聲蕙微
 于年

古道人画


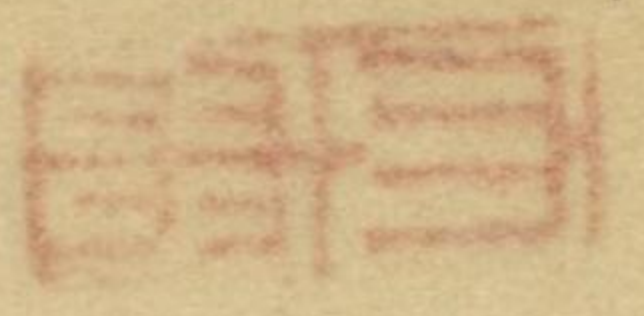
印防蘭

花辨は上部より(花先)起す

用墨濃淡に注意



花
香
郁
放
散
餘
韻
在
心
中
也



洛敬印



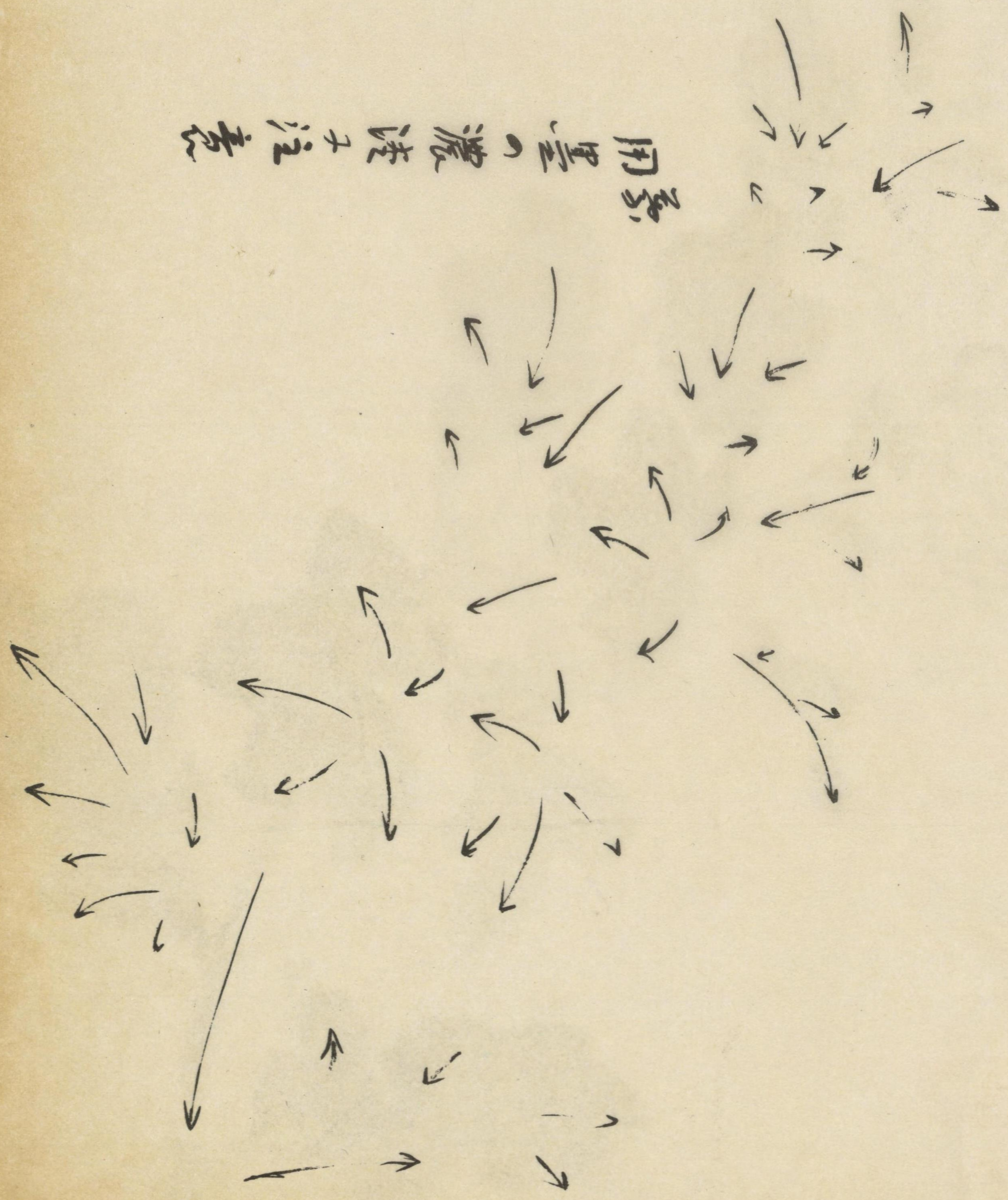
在
心
中
也
洛
敬
印

印刷防閑

花辨は上部を(花先)起す

落款印

用墨濃淡を注意



菊
香
郁
秋
門
會
出
花



有
人
寫
此
概
行
兼
山
社



圖解に用筆の方向を示してある通りに筆を運んで、最後に、生乾きの時に葉脈
 即ち葉筋を入れる。この菊葉の運筆法は、他の種々の花を描く場合直ちに應用
 が出来る。遊印の使用法は畫面の空間の隙を生かす一つの色で、畫面の繪の動
 きの一種である。



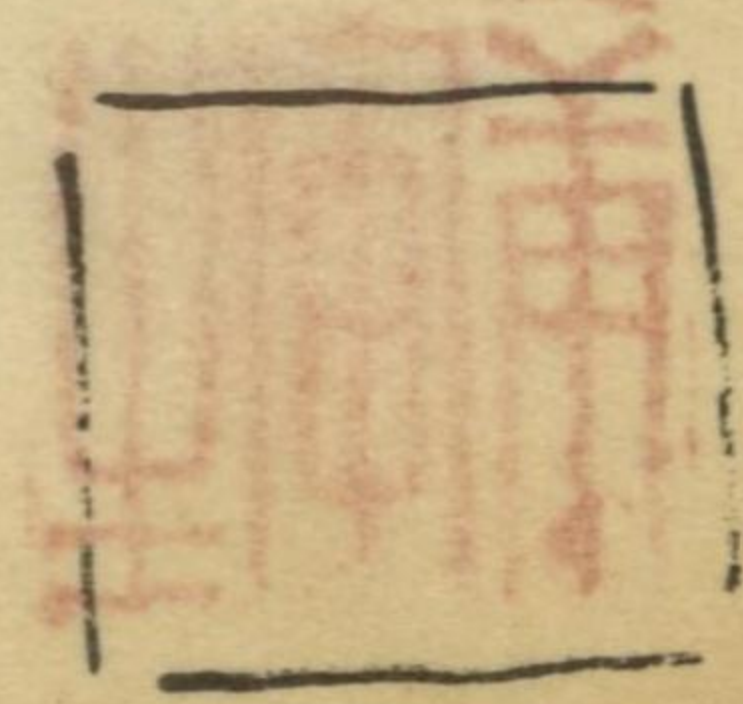
葉の内面は中墨

洗墨

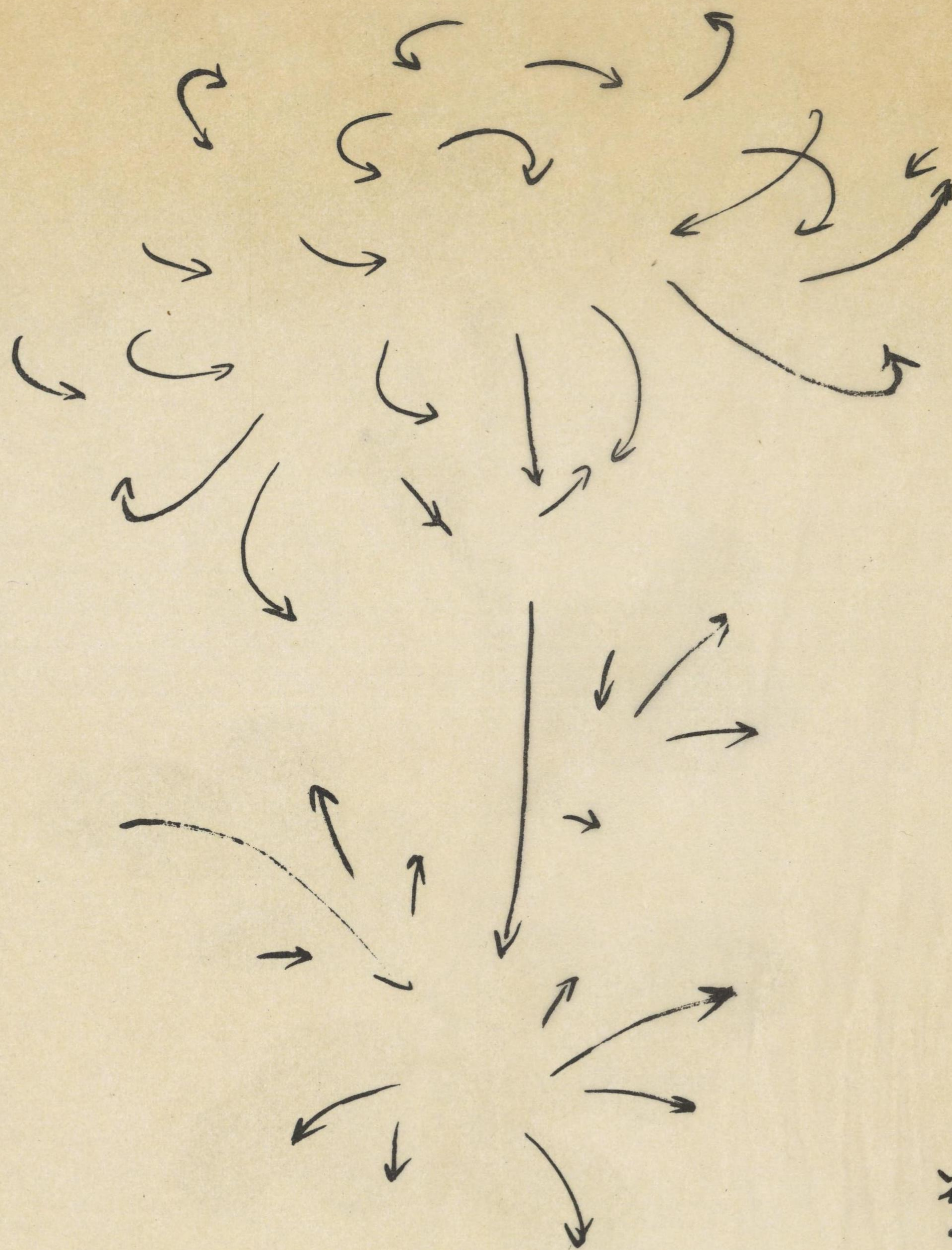
遊印

用筆の
 方向

不見 高人 似此 花 奇 人



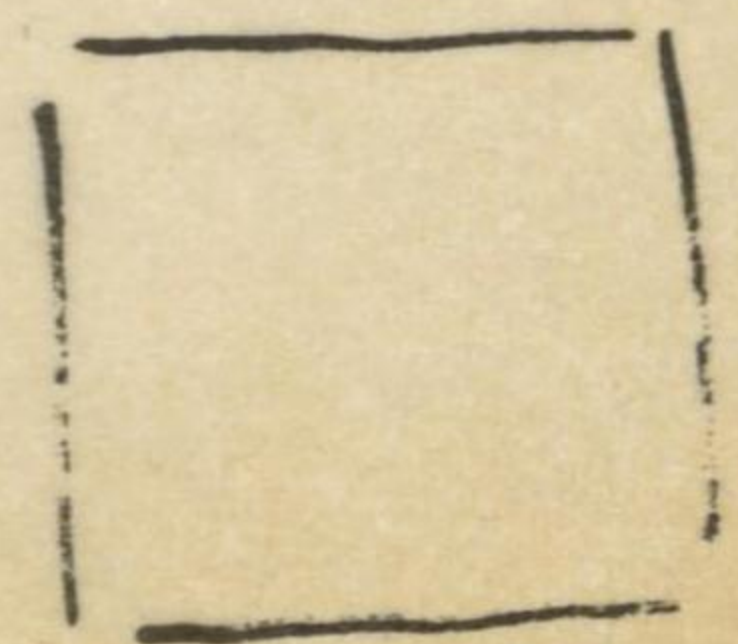
圖解に用筆の方向を示してある通りに筆を運んで、最後に、生乾きの時に葉脈
 即ち葉筋を入れる。この菊葉の運筆法は、他の種々の花を描く場合直ちに應用
 が出来る。遊印の使用法は畫面の空間の隙を生かす一つの色で、畫面の繪の動
 きの一種である。



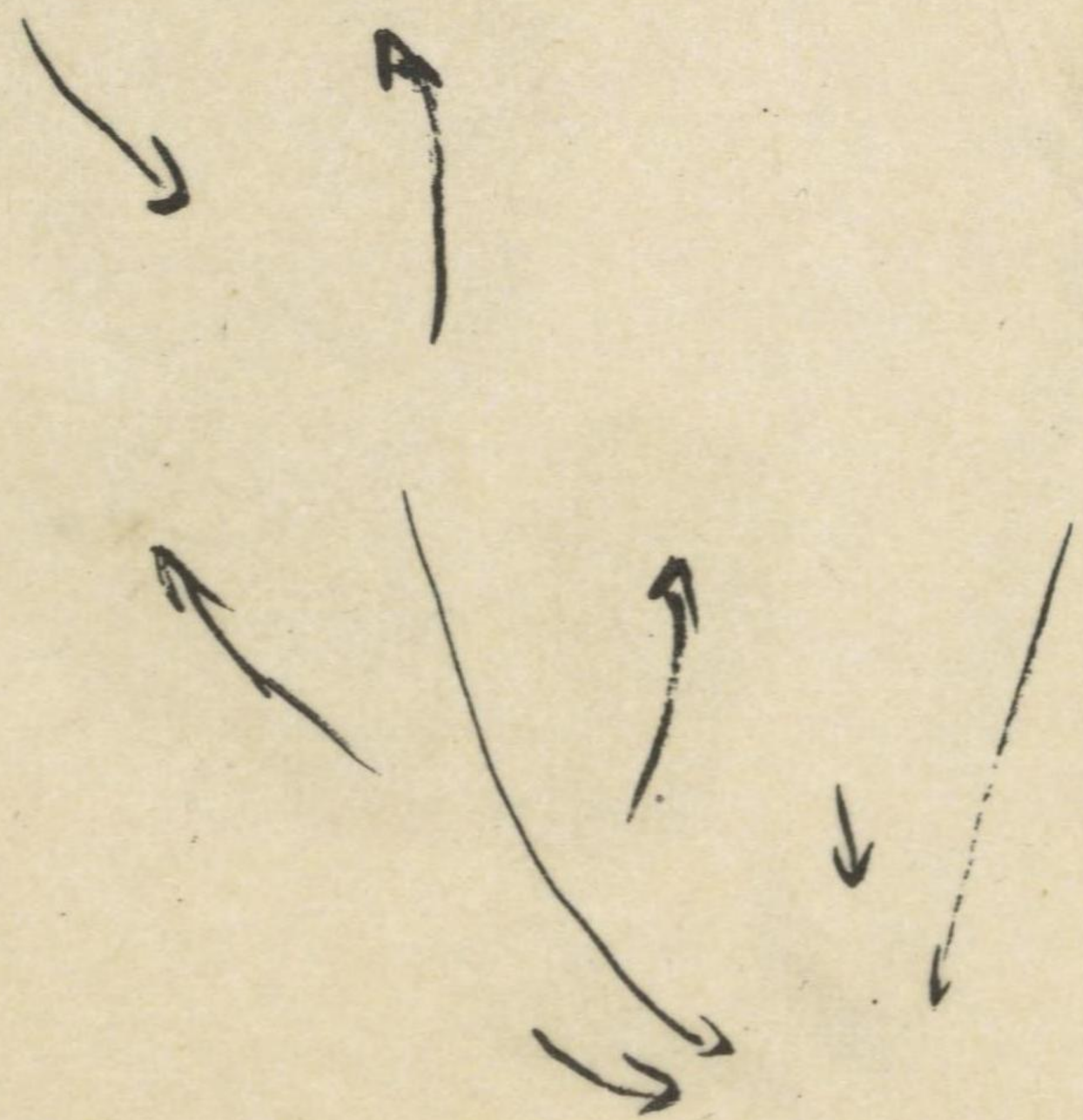
葉の内面は中墨

決墨

遊印



用筆の
方向





不見高人似此花
知是
人



上海图书馆藏



南画初歩

昭和二十八年七月五日印刷
昭和二十八年七月十日發行

定価七〇〇円



著者 矢野 橋
発行者 矢部 良
印刷者 壯和印刷所

矢野 橋
矢部 良
壯和印刷所

發行所

株式會社

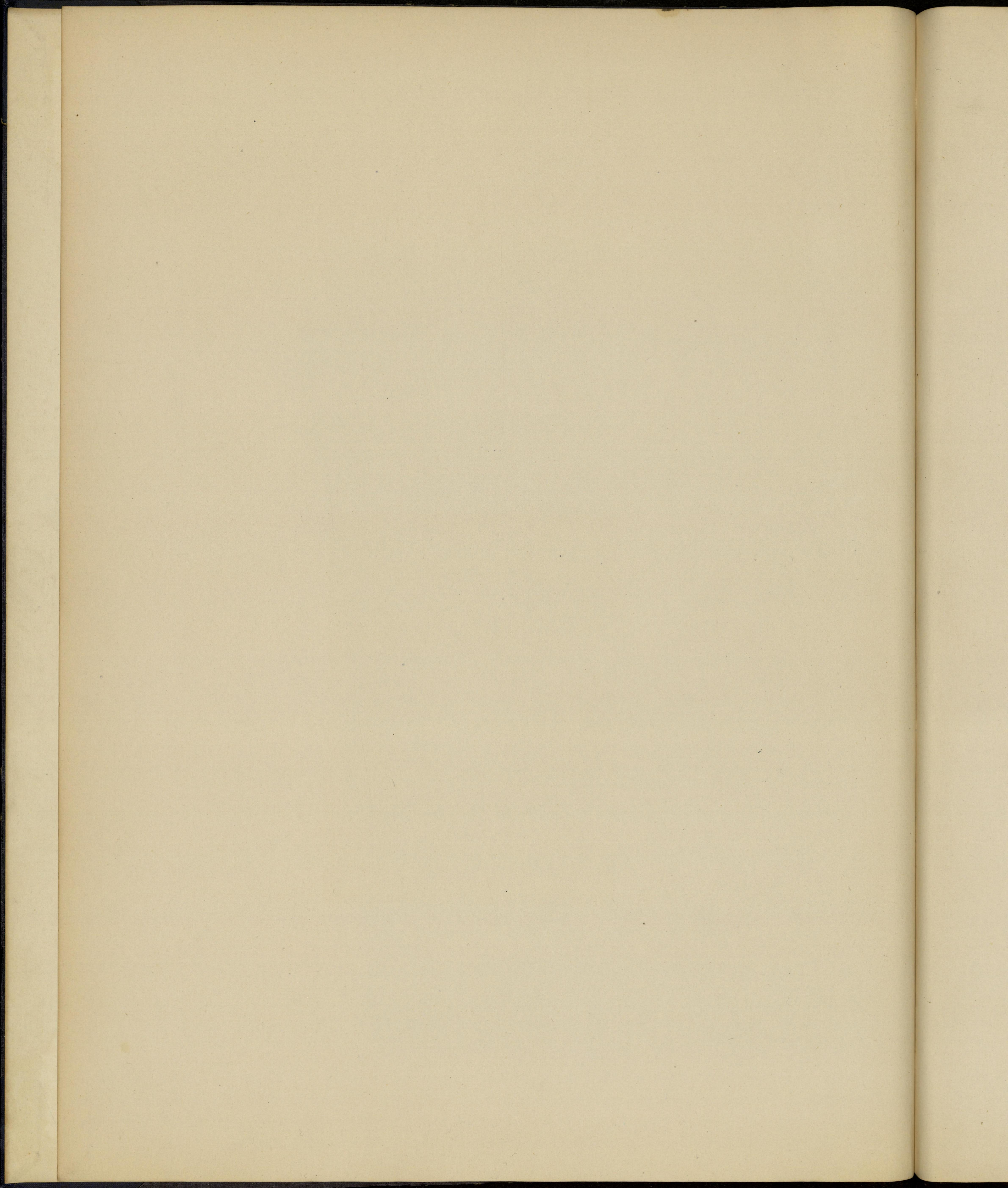
創

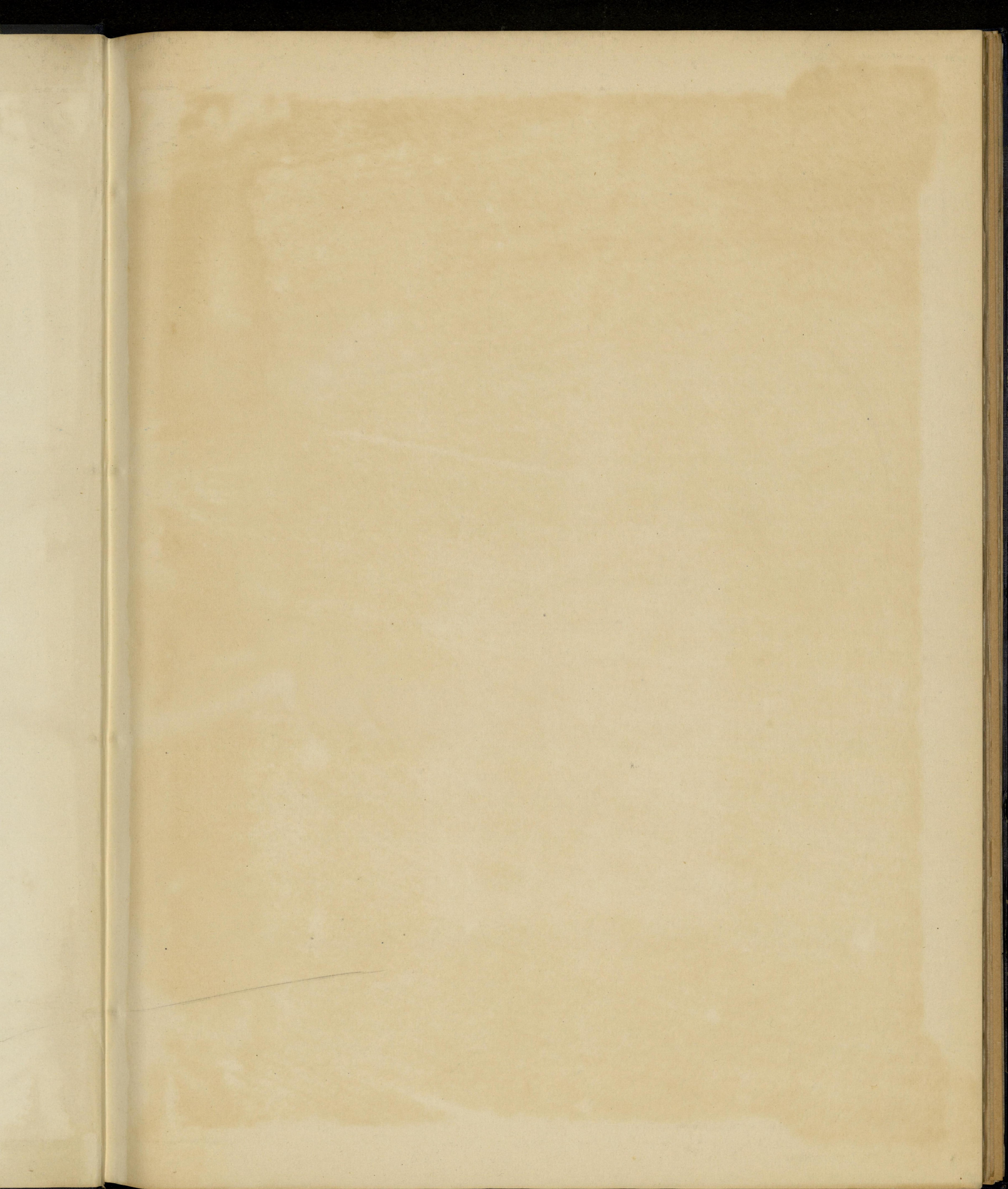
元

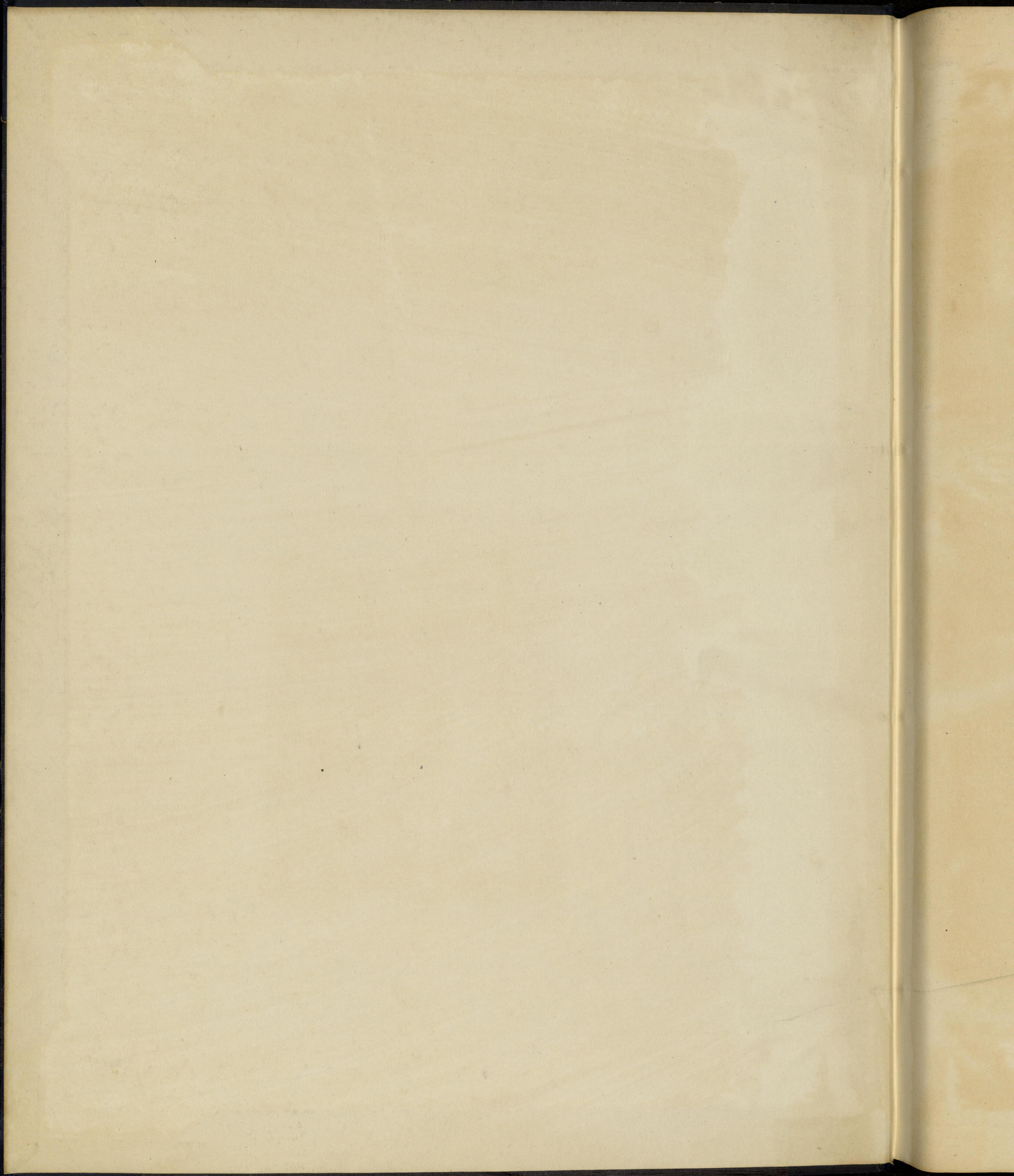
社

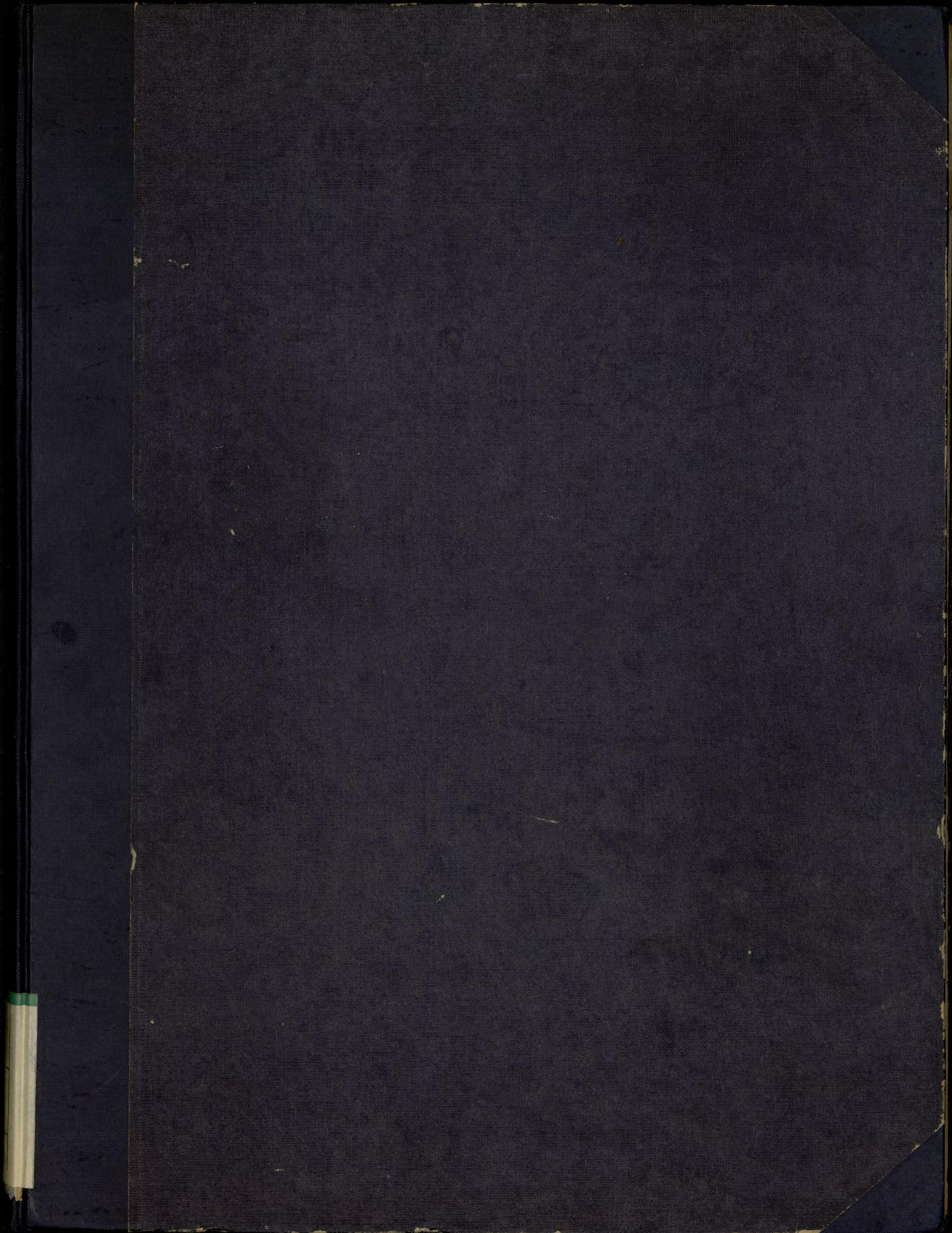


大阪市北区樋上町四五
東京都中央区日本橋小舟町
振替 大阪一五七〇九九番
口座 東京一五六五番







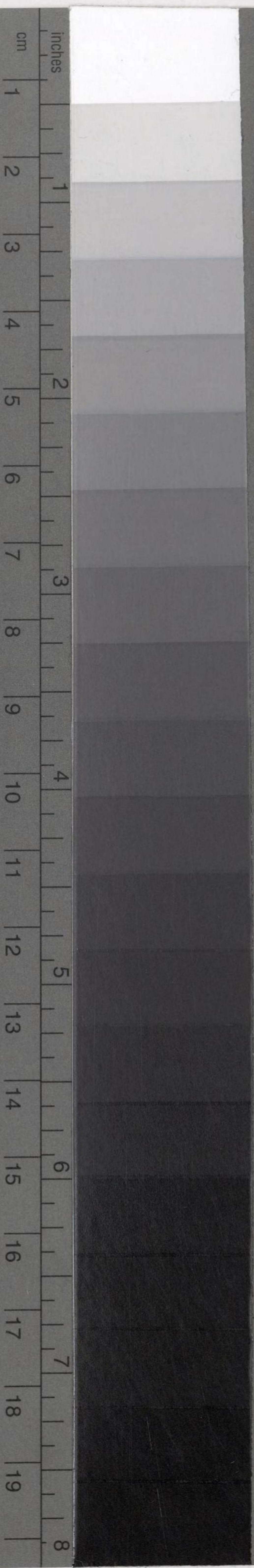


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

